

京都大学

生態学研究センター・ニュース No. 35 業績目録

京都大学生態学研究センター

Homepage: <http://ecology.kyoto-u.ac.jp>

センター長 和田英太郎

Center for Ecological Research

Kyoto University

目 次

- はじめに
 - 活動報告
 - 共同研究
 - 講演活動
 - 著者リストの収録内容と凡例
 - A . Staffs スタッフ
 - B . Research Students and Fellows 大学院生・研修員
 - C . Guest Scientists 協力研究員
 - シンポジウム、セミナー、研究会等
 - 調査船「はす」運航表
 - あとがき
-

はじめに

1995 年度で京都大学生態学研究センターは 5 年目を終了しました。5 年目は COE の制度も始まり、非常勤研究員 3 名、Visiting Professor が 2 名加わり、賑やかになりました。

さて、当センターのスタッフ、非常勤スタッフ、研修員、大学院生、それに協力研究員の方々による 1995 年度の業績目録をここにお届けします。

これまでの成果は 1996 年度中に自己評価報告書としてまとめられる予定となっておりますが、今後とも皆々様の御支援を心からお願い申し上げます。

後期 5 年は、実力の生態学研究センターを目標にしたいと希望しております。

生態学研究センター長 和田 英太郎

活動報告

生態学研究センターでは、1995 年度に次のような共同利用事業およびセンター運営の活動を行いました（括弧内は当該報告が掲載されているセンターニュース）。

1. 共同研究

1995 年度にセンターが行った共同研究は 30 件であった。その内訳は、1992 年度から開始した IGBP（地球圏 - 生物圏国際共同研究計画）の一環としての文部省国際共同研究等経費「水体における物質循環と気候」（代表者：和田英太郎）のほか、文部省科学研究費国際学術研究費 5 件、同総合研究 7 件、同一般研究 3 件、同試験研究 2 件、その他の文部省科学研究費 2 件、その他の助成金 10 件である。

2. 協力研究員

センターとしての研究活動をより推進するために、学内外の研究者に協力研究員（Guest Scientist）を委嘱している（任期 2 年間）。現在 202 名が任命されている（センターニュース No.30 にリスト）。

3. 公募研究会等公募事業

1995 年度は以下のように研究会 6 件、セミナー企画 2 件、実習企画 1 件が実施され、それぞれ活発な議論が展開された。

研究会：延べ 7 日 202 人の参加

1. 水辺の環境利用：生き物とヒトの相互作用、代表者：嘉田由紀子（琵琶湖博物館開設準備室）、実施期日（場所）：平成 7 年 9 月 15～16 日（滋賀県マキノ町）、参加実人数 31 名、延べ人数 62 名（センターニュース No.32）
2. 植物と菌・ウイルスの生態学的相互作用、代表者：巖佐庸（九州大学）、実施期日（場所）：平成 7 年 10 月 4 日（京都大学）、参加実人数 29 名、延べ人数 29 名（センターニュース No.34）
3. 哺乳類の保全生物学：生態学的アプローチと遺伝学的アプローチの統合、代表者：矢原徹一（九州大学理学部）、実施期日（場所）：平成 7 年 10 月 28 日（京都大学）、参加実人数 40 名、延べ人数 40 名（センターニュース No.34）
4. 淡水貝類の繁殖生態と種分化に関する研究、代表者：西脇三郎（筑波大学医療技術短期大学部）、実施期日（場所）：平成 7 年 11 月 12 日（京大会館）、参加実人数 27 名、延べ人数 27 名（センターニュース No.33）
5. 微生物生態学における New Methods の可能性と限界、代表者：那須正夫（大阪大学）、実施期日（場所）：平成 8 年 1 月 6 日（大阪大学待兼山会館）、参加実人数 19 名、延べ人数 19 名（センターニュース No.36）
6. 人間活動、外来生物の侵入・導入による生物群集の変動、代表者：遠藤彰（立命館大学）、実施期日（場所）：平成 8 年 2 月 24 日（京都大学）、参加実人数 25 名、延べ人数 25 名（センターニュース No.36）

セミナー：

国際セミナー「西太平洋アジア国際野外生物学コース」、世話人：湯本貴和、井上民二（京大生態研センター）、実施期日（場所）：1995年8月1日～31日（マレーシア・サラワク州、ランビル国立公園）講師16名（日本10名、マレーシア5名、シンガポール1名）、受講者18名（日本6名、台湾5名、マレーシア5名、韓国2名）（センターニュース No.33）

1. 「生態学における理論実証インターフェース：動物 - 植物間の相互作用を中心に」、代表者：安部琢哉（京大生態研センター）、実施期日（場所）：平成8年3月19～22日（京大生態研センター）、講師8名、受講者25名（センターニュース No.36）

実 習：延べ8日48名

1. 「河川生物に関する基礎実習」、代表者：中西正己・遊磨正秀（京大生態研センター）、実施期日（場所）：平成7年7月27日～8月3日（長野県木曽福島町京大木曽生物研究所）、講師2名、受講者9名（センターニュース No.31）

4. 公開講演会

1. 公開講演会「生物多様性を促進する共生と社会性の発達」
総合研究(A)（代表：安部琢哉）のまとめとして、1995年10月12日、京大会館にて行われ、約40名の参加があった。（センターニュース No.33）
2. 公開ワークショップ「地球共生系」
重点領域研究の成果のまとめとして、1995年11月11日、芝蘭会館にて行われ、約60名の参加があった。（センターニュース No.33）

5. 生態研セミナー

このセミナーは生態学研究センターの共通セミナーとして定期的開催。1995年度は28回（オーガナイザー：東）開催した。毎月2回（原則として第1、第3金曜日に）、毎回2人に1時間ずつ（発表50分、議論10分）話題を提供していただいた。会場は、主として京大理学部の新館（2号館）で、随時、京大生態学研究センター（大津）で行った。センター内からは19人、海外から11人の講演者があった。参加人数は各回17から70名、延べ818名であった。

6. ニュースレターの発行

生態学研究センターの活動を全国の生態学に興味をもたれている方々に知っていただくため、隔月にニュースレターを発行した。1995年度は第28号（4月20日、12頁）、第29号（5月、生態学研究センター業績目録の特集号、51頁）、第30号（6月20日、14頁）、第31号（8月20日、14頁）、第32号（10月20日、18頁）、第33号（12月20日、18頁）、第34号（2月20日、16頁）を発行した。現在、個人757件、機関286件、計1043件に送付されている。ニュースレターには生態学研究センターの活動のみならず、広く生態学一般の情報を提供している。

7. 共同利用施設の充実

（1）大型機器分析：安定同位体比精密測定用質量分析計システムの平成7年度の共同利用は、東京大学海洋研究所、名古屋大学農学部、東北大学理学部、琉球大学理学部（2件）であった。本年度は、質量分析計本体の保守点検に時間を要したが、オーバーホールを行い不良箇所を改善した。平成7年3月にDNAシークエンサー一式が当センターに導入された。構成機種はApplied Biosystem・Perin Elmer 373SDNA sequencer、Gene Amp PCR2400、DNA synthesizer 392である。これらの機械は京都分室に設置され、整備後、全国共同利用に供せられている（センターニュース No.33）。平成7年度の共同利用は、京都大学理学研究科（3件）、横浜市立大学文理学部（1件）であった。

(2) 生態情報アクセス・システム：生態学研究センター内はマッキントッシュ約 30 台のアップルトラックで連結され、『京都大学生態学研究センターニュース』などの編集もすべて、このシステムで行われている。また、旧臨湖実験所より移管された標本のデータベース化の作業を進めている。本年度もセンターニュースなど、センターの情報にパソコン通信でアクセスできる BBS を運営している。1996 年 3 月には WWW ホームページを開設し、セミナー案内、センターニュース、学会へのアクセスなどの情報を提供を開始した。(<http://ecology.kyoto-u.ac.jp> or <http://ecology.kyoto-u.ac.jp/indexj.html>) 現在、京大動物生態のホームページからリンクを受けているが、3 月 10 日をめぐり、京都大学ホームページと Yahoo からのリンクを受けるように申請中である。

(3) 船の利用：当センターの観測調査船「はす」は、センターの調査・観測だけでなく、琵琶湖で調査や実習をされる方々にも共同利用されている。1995 年度の共同利用は、実習 3 件 3 日 (延べ 28 名)、観測調査 14 件 18 日 (延べ 63 名) であった。このほか当センターが実施している毎月の定期観測時 12 件 12 日の同乗者 (延べ 35 名) やセンター教官との共同研究による利用もあった (合計 26 件 30 日延べ 174 名)。

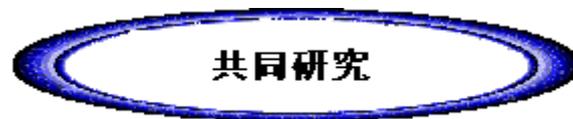
8. 協議員会・運営委員会の開催

1995 年

- 7 月 18 日 運営委員会 (議題：教官人事について、連携共同研究計画について、専門委員会について) (センターニュース No.32)
- 7 月 19 日 協議員会 (議題：教官人事について、非常勤研究員の人事について、連携共同研究計画について、専門委員会について、他 3 件)
- 11 月 15 日 協議員会 (議題：教官人事について、名誉教授の推薦について、平成 8 年度非常勤研究員の公募について、他 1 件) (センターニュース No.33)
- 12 月 8 日 運営委員会 (議題：昇任人事に関する諮問について)

1996 年

- 2 月 13 日 運営委員会 (議題：教官人事について、センター内規及び申し合わせについて、平成 9 年度概算要求について、他 2 件) (センターニュース No. 36)
- 2 月 16 日 協議員会 (次期センター長候補者について、教官人事について、平成 9 年度概算要求について、他 2 件) (センターニュース No. 36)



1995 年度及び 1996 年度すでに実施が決定している文部省科学研究費などによるセンタースタッフが関係した共同研究をまとめました。研究者は代表者を筆頭とし、センタースタッフは斜体文字で示し、センタースタッフ以外の分担研究者については省略してあります。

- 和田・中西・安部・遊磨・成田・杉本・田端・藤田・川那部ほか
「水体における物質循環と気候」
1992-96 文部省国際共同研究等経費 (IGBP 経費)
- 川那部・安部・東・井上ほか
「地球共生系：生物の多種共存を促進する相互作用機構」
1991-95 文部省科学研究費重点領域研究 (1)

- 長野敏英（東農大・農）・和田 ほか
「熱帯湿性林地域における生物生産性の維持メカニズムの解明と環境修復技術の開発」
1995-99 文部省科学研究費創成的基礎研究
- 川那部・和田・安部・井上・中西・湯本・遊磨・東 ほか
「生物多様性維持・利用のための保全地域理論の探究」
1993-95 文部省科学研究費総合研究（A）
- 中西・和田・東 ほか
「琵琶湖における活性中心としての水温躍層：生物・化学・物理相互作用」
1994-95 文部省科学研究費総合研究（A）
- 安部・東・杉本 ほか
「生物多様性を促進する共生と社会性の発達」
1995-96 文部省科学研究費総合研究（A）
- 甲山隆司（北大・地球環境）・菊沢 ほか
「林木集団の構築メカニズム：マルチディメンジョンモデルによる解析」
1995-96 文部省科学研究費総合研究（A）
- 山本進一（岡山大・農）・中静 ほか
「大面積長期継続プロットによる森林動態研究」
1995-96 文部省科学研究費総合研究（A）
- 巖佐庸（九州大学理学部）・井上 ほか
「絶滅と存続の集団生物学」
1995 文部省科学研究費総合研究（A）
- 広瀬忠樹（東北大・理）・菊沢 ほか
「地球変化と陸域生態系：研究推進と国際対応」
1995 文部省科学研究費総合研究（B）
- 和田・安部・清水・中西・成田 ほか
「安定同位体による生物圏の化学構造の解明 - 新しいパラダイムの確立」
1993-95 文部省科学研究費一般研究（A）
- 川那部・和田・中西・遊磨・成田 ほか
「琵琶湖沿岸域における環境変動とそれに対する生物群集の動態」
1995-97 文部省科学研究費一般研究（B）
- 田端・藤田 ほか
「ミズゴケ湿原の水質と保全」
1993-95 文部省科学研究費一般研究（B）
- 井上・湯本 ほか
「東南アジア熱帯雨林の林冠構造と生物多様性の研究」
1994-96 文部省科学研究費国際学術研究
- 安部・東・杉本 ほか
「シロアリの地球規模での多様化プロセス：そのパターンと成因機構」
1995-96 文部省科学研究費国際学術研究
- 川那部・遊磨・成田 ほか
「BBTM湖（琵琶湖・バイカル湖・タンガニカ湖・マラウイ湖）生態系における生物多様性促進機構の比較研究」
1995-96 文部省科学研究費国際学術研究
- 伊沢紘生（宮城教育大・教育）・湯本 ほか
「新世界ザル社会にみられる父系構造とその適応的意味に関する研究」
1995-97 文部省科学研究費国際学術研究
- 森野浩（茨城大・理）・山村 ほか
「バイカル湖におけるコミュニティと環境変動、進化系統に関する研究」
1995 文部省科学研究費国際学術研究
- 吉岡崇仁（名大・大気水圏研）・和田 ほか
「不均一系微小粒子の生物活性測定システムの開発」
1994-96 文部省科学研究費試験研究（B）

- 紙谷智彦（新潟大・農）・中静 ほか
「落葉広葉樹薪炭林の天然林型用材林への誘導技術」
1995-96 文部省科学研究費試験研究（B）
- 尾本恵市（国際日本文化研究センター）・田端 ほか
「生命科学と生命観 - 20 世紀における発展と変遷」
1995 総合研究大学院大学共同研究
- 井上・東 ほか
「生物による資源アーキテクチャー形成 - 生物多様性の維持にはたす役割に注目して - 」
1995 京都大学教育研究学内特別経費
- 渡辺直（香川大・教育）・遊磨 ほか
「河川の生物群集と物理的環境との関係」
1994-95 京都大学水資源研究センタープロジェクト研究
- 河合崇欣（環境研）・和田 ほか
「バイカル湖湖底泥を用いる長期環境変動の解析に関する国際共同研究」
1995-99 科学技術庁振興調整費
- 広瀬忠樹（東北大・理）・菊沢・湯本 ほか
「モンスーンアジア陸域生態系における地球温暖化のインパクト」
1994-95 環境庁推進費 FS
- 近藤高貴（大阪教育大）・遊磨 ほか
「琵琶湖の沿岸域を中心とした生態系に関する研究」
1994-95 琵琶湖博物館開設準備室委託研究
- 名越誠（奈良女大・理）・成田 ほか
「沖合生態系の異変に伴う食物連鎖構造の解析」
1995-96 琵琶湖研究所委託研究
- 犬伏和之（千葉大・園芸）・杉本 ほか
「水田・低湿地における温室効果ガスの生成・分解のメカニズムに関する研究」
1995-96 日産学術研究助成
- 遊磨 ほか
「身近な水辺の自然：「人 - 水 - 生き物」相互作用系の研究」
1995-96 日本生命財団研究助成
- R.W. Sterner・J. Urabe
「Stoichiometry in consumer-resource interactions : phosphorous, lipids, and energetics」
1995 NSF

講演活動

1995 年度センターのスタッフが行った講演活動の一部のリストです。これ以外にも多数の講演が行われました。

- Urabe, J.(1995/6/12) Effects of zooplankton on seston stoichiometry: magnitude, direction and implications. American Society of Limnology and Oceanography, 1995 Meeting. June 11-15, University of Nevada Reno, USA.
- Urabe, J.(1996/3/21) Phosphorus limitation of Daphnia growth : is it real? Workshop on role of lipids, essential elements and morphology of food for zooplankton. March 17-21, Center for Limnology, Netherlands Institute of Ecology, The Netherlands.
- 井上民二 (1995/1/28) 熱帯雨林の林冠部における共進化．地球共生系・多様な生物の共存する仕組み．第 9 回「大学と科学」公開シンポジウム．

- Inoue, T. and Iwakuma, T. (1995/4/8) Regional Report from Japan. In: "First Regional Conference on International Long-Term Ecological Research -The East Asia and Pacific Region". Taipei, Taiwan.
- Inoue, T. (1995/6/7) Focus of DIWPA activities. In: The Third Planning Meeting of DIWPA. Beijing, China.
- Inoue, T. (1995/8/2) Welcome Speech and Canopy Biology Program in Lambir Hills National Park. In "International Field Biology Course in Western Pacific and Asia I. Bornean Tropical Rainforest". Lambir, Sarawak, Malaysia.
- Inoue T. and Hamid, A. A. (1995/11/20) Canopy Biology Program in Sarawak. In: International symposium and workshop on conservation biology: molecular, biotechnological and conventional approaches. Kuching, Malaysia.
- Inoue, T. (1995/12/1) Action plan for the first phase of biodiversity research in Western Pacific and Asia. In: Biodiversity and the Dynamics of ecosystems - DIWPA International Workshop. Singapore.
- Inoue T. and Hamid, A. A. (1995/12/6) Canopy Biology Program in Sarawak - An Approach for Understanding and Conservation of Biodiversity of Tropical Rainforests. In: Asian science and technology congress 1995. Kuala Lumpur, Malaysia.
- 角谷岳彦 (1995/9/30) 京都大学構内と芦生演習林における送粉系．個体群生態学会第 17 回シンポジウム、三重．
- 角谷岳彦 (1995/10/21) 芦生の訪花性昆虫群集．フィールド・シンポジウム「芦生の天然林、単純化はどこまで進んだか」(京都大学芦生演習林主催)、京都．
- 角谷岳彦 (1996/3/27-29) トチの実の豊凶に及ぼす訪花ハナバチ相の年次変化．応用動物昆虫学会第 40 回大会、山口．
- 菊沢喜八郎・甲山隆司(北大地球環境研)(1995/8/28) 直径一樹高関係の時間的推移は個体間相互作用で説明できるか．(1995/8/30) 植物の資源獲得方法の時間的推移：葉の時間・空間的配列．日本生態学会第 42 回大会「生態学における数理的手法」、盛岡．
- 菊沢喜八郎 (1995/8/30) フェノロジーにもとづいた樹種多様性の緯度・高度勾配．日本生態学会第 42 回大会シンポジウム、盛岡．
- 菊沢喜八郎 (1996/2/1) 樹木の葉のフェノロジー．「生物多様性シンポジウム」、瀬底．
- 菊沢喜八郎・Ackerly, D. (Harvard University) (1996/3/30) シュートのコストを考慮した葉の寿命モデル．日本生態学会第 43 回大会、八王子．
- 藤田昇 (1996/2/24) 水質の人為的变化と湿原の遷移：深泥池を例にして．生態学研究センター公募研究会「人間活動、外来生物の侵入・導入による生物群集の変動」、京都．
- 藤田昇 (1996/3/30) ミズゴケ湿原は貧栄養か．日本生態学会第 43 回大会、八王子．
- 杉本敦子・Sternberg, L. (1995/11/12) 植物のセルロース酸素同位体組成と水循環．日本地球化学会、清水．
- 成田哲也・松原健司 (1995/10/6) 安定同位体からみた琵琶湖の底生動物の食物関係．日本陸水学会第 60 回大会、名古屋．
- Nakanishi, M. and Sekino, T. (1995/6/5-12) Recent drastic changes in Lake Biwa bio - communities, with special attention to exploitation of the littoral zone. Pacific Science Congress, Beijing, China.
- Nakanishi, M., Sekino, T., Kimoto, T. and Tsuda, R. (1995/9/10-14) A role of thermocline in relation to phytoplankton vertical distribution of Lake Biwa. IUTAM Symposium on physical Limnology, Broome, Australia.
- 中西正己 (1995/10/6) 琵琶湖における活性中心としての水温躍層．日本陸水学会第 60 回大会、名古屋．
- 中静透 (1995/4/3) ミズメの更新にはシードバンクとシードレインのどちらが重要か．第 106 回日本林学会大会、札幌．
- 中静透・高橋やよひ・川口英之 (1995/8/28) 枝サイズ分布を利用した樹木の繁殖投資量の推定．第 42 回日本生態学会大会、盛岡．
- Nakashizuka, T. (1995/12/1) Factors maintaining forest tree diversity. DIWPA International Workshop, Singapore.
- 榎元敏也 (1995/9/30) クサグモにおける雌の配偶者選択と雄の繁殖成功．個体群生態学会第 17 回大会、湯ノ山温泉．

- 榎元敏也 (1995/12/5) 集合性ウズグモ *Philoponella raffrayi* のコロニーと採餌行動．第 14 回日本動物行動学会、神戸．
 - 榎元敏也 (1995/12/16) クモ類の配偶システムーオスはどのようにして子孫を残すか？ー．立命館大学共同研究グループ研究会、草津．
 - 榎元敏也・Jurie Intachat (1996/1/10) 半島マレーシア低地熱帯雨林におけるクモ類の群集組成．1995 年度地球環境研究総合推進費分野別研究発表会 熱帯林生態系の解明をめざして、国立環境研究所大山記念ホール．
 - 遊磨正秀 (1995/1/21) 環境調査と博物館づくり．琵琶湖博物館シンポジウム、滋賀県野洲町．
 - 遊磨正秀 (1995/2/21) アフリカの湖、日本の湖、その巨大湖をめぐる生物たち．河川湖沼浄化講演会、長野県大町市．
 - 遊磨正秀 (1995/3/25-26) 地域の自然観とその形成．教員養成大学研究集会「理科教育の現状と課題」、大阪府柏原市．
 - 遊磨正秀・嘉田由紀子 (1995/6/10) 水辺の変遷と生物相の変化～『水辺の遊び』調査から～．第 5 回国際景観生態学会日本支部会大会公開シンポジウム、つくば市．
 - 遊磨正秀 (1995/6/17) ホタルのくらし．滋賀県朽木村．
 - 遊磨正秀・守山市はたる研究会 (1995/6/24) 守山市におけるホタルの盛衰．第 28 回ホタル研究大会、小牧市．
 - 遊磨正秀・嘉田由紀子・藤岡康弘 (1995/8/24) 水辺の生物相と遊びの時代変遷 - 3 世代アンケート調査から～．土木学会環境システム研究会、大津市．
 - 遊磨正秀・嘉田由紀子 (1995/8/28) 琵琶湖周辺における淡水生物相 90 年の変遷．第 42 回日本生態学会大会、盛岡市．
 - 遊磨正秀 (1995/9/15 - 16) 琵琶湖周辺における水生生物群集の変遷．生態学研究センター公募研究会「水辺の環境利用：生き物とヒトの相互作用」．
 - 遊磨正秀 (1995/10/27) 生態学からみた身近な自然・水辺．日独河川技術シンポジウム、大阪市．
 - 遊磨正秀 (1995/11/18 - 19) 人為生態系（水田・集落まわり）における生態学研究の課題．日本村落研究学会、亀岡市．
 - 湯本貴和 (1995/5/20) 東アジアのなかの屋久島の森．屋久島高校講演会「屋久島のサルと森」、鹿児島県上屋久町．
 - 湯本貴和 (1995/7/8) 生物の多様性．第 7 回ユネスコ地球環境講座、岡山．
 - Yumoto, T., Inoue, T. & Hamid, A. A. (1995/12/2) Canopy biology programme in Sarawak - Long-term study of plant phenology and plant-animal interactions in mixed dipterocarp forests. DIWPA International Workshop "Biodiversity and the Dynamics of Ecosystems", Singapore.
 - Wada, E. (1995/1/27) Significance of $\delta^{13}\text{C}$ measurement in CH_4 study. Workshop on methane production from rice plants. RITE, Kyoto.
 - 和田英太郎 (1995/2/9) BICER 5 年史、日本学術会議シンポジウム「バイカル湖は今」．日本学術会議、東京．
 - Wada, E. (1995/6/7) Regional DIVERSITAS Programmes : DIWPA (Diversitas in Western Pacific & Asia), Pacific Science Congress, Beijing.
 - Yamamura, N. (1995/5/12) Vertical Transmission and Evolution of Mutualism from Parasitism. Workshop on Ecology and Evolution of Mutualism, Wien, Austria.
 - Yamamura, N. (1995/8/4-5) Theoretical Ecology. International Field Biology Course in Western Pacific and Asia, Rambir, Sarawak, Malaysia.
 - 山村則男 (1995/10/) 共生微生物の進化生態学．第 17 回個体群生態学会シンポジウム、三重県湯ノ山．
 - 田端英雄 (1995/2/4) 里山はどんな自然か．兵庫県養父郡八鹿町．
 - 田端英雄 (1995/11/25) 里山の自然をどのように残すか．京都府相楽郡木津町鹿背山公民館．
 - Tabata, H. (1995/12/15) The Role of Satoyama in the Future Society'. An International Symposium 'Forests, Myths and Civilizations'. Nara, Japan.
-

著作リストの収録内容と凡例

1. 第5巻著作リストには生態学研究センターの構成員（常勤スタッフ，大学院生および研修員）および協力研究員が，1995（平成7）年（「年度」ではない）に発表した著作を収録します．印刷中のものも，発表年が1996年以降になるものは収録しません．1995年以降に加わった新構成員については，1995年までの全著作を挙げます．また，第4巻までの遺漏についても，遡って収録しています．

2. 配列は，(A) スタッフ，(B) 大学院生および研修員，(C) 協力研究員のそれぞれについて，名前のアルファベット順です．(A)，(B) については，各人ごとに昨年（センターニュース No. 7, 14, 21, 29）に引きつづいて発表年代順のナンバーをふってあります．協力研究員については，各巻ごとに1）からはじまるナンバーをふります．著作の種別（原著論文，総説，解説記事，報告書など）については区別しません．

3. 協力研究員については，著作リストに載せる・載せないは，各研究員の自由意志とし，「載せてもよい」と判断された方の，そして判断された著作だけを収録しています．ご協力ありがとうございました．

4. 印刷の形式は欧文・和文にかかわらず以下の3通りとしました：

(a) 定期刊行学術誌掲載の論文など

カバ -) 著者名{ 著者名; ...} (刊行年) 論文タイトル. 定期刊行物名 巻: 始ページ - 終ページ. [キーワード]

(b) 単行本（含翻訳）など

カバ -) 著者名{ 著者名; ...} (刊行年) 著書タイトル. 総ページ pp. 出版社, 所在地. [キーワード]

(c) 単行本のなかに掲載の論文など

カバ -) 著者名{ 著者名; ...} (刊行年) 論文タイトル. In: 単行本名. (ed. by 編者名{ ...}) pp. 始ページ - 終ページ. 出版社, 所在地. [キーワード]

A. Staffs スタッフ

原著論文

ABE, Takuya 安部琢哉

- 110) Edwards, C.A., Abe, T. & Striganova, B.R. (eds.)(1995) Structure and function of soil communities. 152pp. Kyoto University Press.
- 111) Abe, T. (1995) Feeding activities and intra and interspecific interactions of a fungus-growing termite, *Macrotermes michaelsoni* (Sjostedt) in the grassland of Kenya. In: Structure and function of soil communities (eds. by Edwards, C.A., Abe, T. & Striganova, B.R.). Kyoto University Press 139-152.
- 112) 安部琢哉 (1995) C/Nバランス仮説に基づく共生、生態系の機能、生物多様性の理解 (1). *Tropical Ecology Letters* 21: 5-6.
- 113) 井上徹志; 安部琢哉 (1995) シロアリは自らセルラーゼを作る. *化学と生物* 33 (7): 421 - 423.

FUJITA, Noboru 藤田昇

- 90) 藤田昇 (1995) ヨシの技・サボテンの術 水を上手に使う植物たち. 172pp. 研成社、東京.
- 91) 藤田昇 (1995) ギボウシの種. *園芸ニューズレター* 13: 3-5.

- 55) Higashi, M. and Nakajima, H. (1995) Indirect effects in ecological interaction networks (I): the chain rule approach. *Mathematical Bioscience* 130: 99-128.
- 56) Nakajima, H. and Higashi, M. (1995) Indirect effects in ecological interaction networks (II): the conjugate variables approach. *Mathematical Bioscience* 130: 129-150.
- 57) Patten, B.C. and Higashi, M. (1995) First passage flows in ecological networks: measurement by input-output flow analysis. *Ecological Modelling* 79: 67-74.

- 177) Yamakura, T.; Yamada, I.; Inoue, T.; Ogino, K. (1995) A long-term and large-scale research of the Lambir Forest in Sarawak: Progress and Conceptual Background of Japanese activities. *Tropics* 4(2/3): 259-276.
- 178) 湯本貴和・井上民二 (1995) サラワク林冠生物学計画 - 混合フタバガキ林のフェノロジーと植物・動物相互の解明を目指して. *Tropics* 4(4): 307-315.
- 179) Kato, M.; Inoue, T.; Hamid, A. A.; Nagamitsu, T.; Merdek, M. B.; Nana, A. A.; Itiono, T.; Yamane, S.; Yumoto, T. (1995) Seasonality and vertical structure of light-attracted insect communities in a dipterocarp forest in Sarawak. *Researches on Population Ecology* 37(1): 59-79.
- 180) Inoue, T.; Yumoto, T.; Hamid, A. A.; Lee, H. S.; Ogino, K. (1995) Construction of a canopy observation system in a tropical rainforest of Sarawak. *Selbyana* 16(1): 24-35.
- 181) Kato, M.; Inoue, T.; Nagamitsu, T. (1995) Pollination biology of *Gnetum* (Gnetaceae) in a lowland mixed dipterocarp forest in Sarawak. *American Journal of Botany* 82(7): 862-868.
- 182) Inoue, T.; Hamid, A. A. (1995) Introduction to the Canopy Biology Programme. In: Long term ecological research of tropical rain forest in Sarawak. (eds, by Lee, H. S.; Ashton P. S.; Ogino, K.) pp. 120-131. Ehime University.
- 183) Kato, M.; Inoue, T.; Nagamitsu, T.; Hamid, A. A.; Merdek, M.; Nano, A. R. I.; Itiono, T.; Yamane, S.; Yumoto, T. (1995) Seasonality and vertical structure of light-attracted insect communities in a dipterocarp forest in Sarawak. In: Long term ecological research of tropical rain forest in Sarawak. (eds, by Lee, H. S.; Ashton P. S.; Ogino, K.) pp. 132-141. Ehime University.
- 184) Yumoto, T.; Inoue, T.; Momose, K.; Nagamitsu, T.; Nagamasu, H.; Itino, T. (1995) Plant phenology in a non-general flowering year in Lambir Hills National Park, Sarawak. In: Long term ecological research of tropical rain forest in Sarawak. (eds, by Lee, H. S.; Ashton P. S.; Ogino, K.) pp. 150-156. Ehime University.
- 185) Kawai, M.; Inoue, T. et al. (1995) Biotechnology and biological diversity. (eds by Rehm, H. -J.; Reed, G.) *Biotechnology* 12: 433-455.
- 186) 井上民二 (1995) 種の相互作用系としての生態系. In: 熱帯生物機能利用技術の先導研究. 第一章 熱帯生物多様性の保全と持続的利用. pp. 10-18. (財) バイオインダストリー協会.
- 187) 井上民二 (1995) 北米、中南米. In: 熱帯生物機能利用技術の先導研究 第五章 海外調査. pp. 272-281. (財) バイオインダストリー協会.
- 188) 井上民二 (1995) 熱帯雨林の林冠部における共進化. In: 地球共生系 - 多様な生物の共存する仕組み. pp. 106-117. 第9回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会. (株) クバプロ.
- 189) 井上民二 (1995) パネルディスカッション・再び「地球共生系とは？」 In: 地球共生系 - 多様な生物の共存する仕組み. pp. 162-174. 第9回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会. (株) クバプロ.
- 190) 井上民二 (1995) サラワク林冠生物学計画の展開. *学術月報* 45(9): 37-42. 日本学術振興会.
- 191) 井上民二 (1995) 熱帯多雨林の林冠・最後のフロンティア. *週刊朝日百科「植物の世界」* 75: 94-96. 朝日新聞社. 東京.
- 192) 井上民二 (1995) 一斉開花とエルニーニョに関係が？ *科学朝日* 55(3): 12-13. 朝日新聞社. 東京.

- 193) 井上民二 (1995) トピックス - 熱帯林のフィールドワーカーたち. 週刊朝日百科「植物の世界」98: 62-64. 朝日新聞社. 東京.
- 194) Roubik, D. W.; Inoue, T.; Hamid, A. A. (1995) Canopy foraging by two tropical honeybees: Bee height fidelity and tree genetic neighborhoods. *Tropics* 5(1/2): 81-93.
- 195) Inoue, K.; Kato, M.; Inoue, T. (1995) Pollination ecology of *Dendrobium setifolium*, *Neuwiedia borneensis*, and *Lecanorchis multiflora* (Orchidaceae) in Sarawak. *Tropics* 5(1/2): 95-100.
- 196) Inoue, T.; Hamid, A. A. (1995) The canopy biology program in Sarawak. Inside CTFIS, pp. 7. Smithsonian Tropical Research Institute. Washington D. C., USA.

INOUE, Tetsushi 井上徹志

- 1) Abe, T.; Inoue, T. (1993) Fauna and nesting habits of termites in the peat swamp forest and rubber plantation at Narathiwat, Southern Thailand - preliminary report. *Island Studies in Okinawa* 11: 43-54.
- 2) 井上徹志 (1994) キノコシロアリの生態. *昆虫と自然* 29(5): 23-26.
- 3) Sugimoto, A.; Inoue, T.; Tayasu, I.; Wada, W.; Abe, T. (1995) Methane emissions from different castes of termites in Narathiwat, Thailand. *Tropics* 4: 253-257.
- 4) 井上徹志・安部琢哉 (1995) シロアリは自らセルラーゼを作る. *科学と生物* 33: 421-423.

KAKUTANI, Takehiko 角谷岳彦

- 1) Kakutani, T., Inoue, T. and Kato, M. (1989) Nectar secretion pattern of the dish-shaped flower, *Cayratia japonica* (Vitaceae), and nectar secretion patterns by insect visitors. *Researches on Population Ecology* 31: 381-400.
- 2) Kato, M., Kakutani, T., Inoue, T. and Itino, T. (1990) Insect-flower relationship in the primary forest of Ashu, Kyoto: An overview of the flowering phenology and the seasonal patterns of insect visits. *Contribution from the Biological Laboratory, Kyoto University* 27: 309-375.
- 3) Inoue T., Kato, M., Kakutani, T., Suka, T. and Itino, T. (1990) Insect-flower relationship in the temperate deciduous forest of Kibune, Kyoto: An overview of the flowering phenology and the seasonal pattern of insects visits. *Contribution from the Biological Laboratory, Kyoto University* 27: 377-462.
- 4) Kakutani, T., Inoue, T., Kato, M. and Ichihashi, H. (1990) Insect-flower relationship in the campus of Kyoto University, Kyoto: An overview of the flowering phenology and the seasonal pattern of insect visits. *Contribution from the Biological Laboratory, Kyoto University* 27: 465-521.
- 5) 角谷岳彦 (1990) トチノキ. 『フィールドウォッチング1』 pp.14-17. (田中肇編, 北隆館).
- 6) 角谷岳彦 (1991) ヤブガラシ. 『フィールドウォッチング4』 pp.32-35. (田中肇編, 北隆館).
- 7) 角谷岳彦 (1991) 芦生のマルハナバチ. 『京都の昆虫』 p.149-152. (京都昆虫研究会編, 京都新聞社)
- 8) 角谷岳彦 (1991) 花と昆虫のエコロジー - データベース作成とラベル印字. *日本の生物* 5(2): 50-55. 文一総合出版.
- 9) 角谷岳彦 (1991) 花と昆虫のエコロジー - 基礎データの解析. *日本の生物* 5(4): 50-55. 文一総合出版.
- 10) 角谷岳彦 (1991) 花と昆虫のエコロジー - 花蜜の分泌パターンの測定. *日本の生物* 5(5): 52-57. 文一総合出版.
- 11) 角谷岳彦 (1991) 生態学における SAS 利用. *個体群生態学会会報* 48:61-66.
- 12) 角谷岳彦 (1992) ヤブガラシの花蜜分泌とミツバチの訪花行動. *ミツバチ科学* 13:27-34.
- 13) Kakutani, T., Inoue, T., Tezuka, T. and Maeta, Y. (1993) Pollination of strawberry by the stingless bee, *Trigona minangkabau* and the honey bee, *Apis mellifera*: an experimental study of fertilization efficiency. *Researches on Population Ecology* 35: 95-111.

- 14) 角谷岳彦 (1993) 植物の花蜜分泌様式と訪花者の利用様式. 『花に引き寄せられる動物 - 花と送粉者の共進化』 pp.79-102. (井上民二・加藤真編, 平凡社)
- 15) 角谷岳彦 (1994) 訪花昆虫群集に関する送粉生態学的研究 - 花蜜分泌様式と昆虫間競争からみた群成構集 -. 京都大学大学院農学研究科 博士論文. 232 pp.

KAWANABE, Hiroya 川那部浩哉

- 631) 川那部浩哉; 岩坪五郎; 和田英太郎; 立本成文; 大嶋泰治 (1994) アジア、太平洋地域における国際環境協力のあり方: 森林と生物多様性をキーワードとして. 国際環境協力に関する研究成果報告会議事録第1部. 1+33 pp., 2 pls. 地球環境関西フォーラム国際環境協力分科会, 大阪.
- 632) 川那部浩哉; 岩坪五郎; 和田英太郎; 立本成文; 大嶋泰治 編 (1994) アジア、太平洋地域における地球環境問題に対する関西の国際協力のあり方 [報告書集]. 1+76 pp. 地球環境関西フォーラム国際環境協力分科会, 大阪.
- 633) Kawanabe, H.; Iwatsubo, G.; Oshima, Y.; Tachimoto, N.; Wada, E. (ed) (1994) Best ways for the Kansai to support for solution of global environmental problems in Asia and Pacific Area. 1+74+1 pp. Global Environment Forum - Kansai, International Environmental Cooperation Sub-committee.
- 634) 川那部浩哉; 岩坪五郎; 和田英太郎; 大嶋泰治 (1994) アジア、太平洋地域におけるわが国の国際協力のあり方: 森林と生物多様性をキーワードとして. 国際環境協力に関する研究成果報告会議事録第1部. 21 pp. 地球環境関西フォーラム, 大阪.
- 635) 川那部浩哉 (1995) 「地球共生系」とは何か. 創造の世界, 93:7-11.
- 636) 河合雅雄; 川那部浩哉; 高林純爾; 東正彦; 和田英太郎; 中根周歩 (1995) 生物多様性の謎を探る. 創造の世界, 93:50-72.
- 637) 川那部浩哉 (1995) 富士山も穴道湖も、文化財. BUILCARE, 109: 6.
- 638) Yanagisawa, Y.; Kawanabe, H. (ed) (1995) Ecological and limnological study on Lake Tanganyika and its adjacent regions IX. 149 pp.
- 639) 川那部浩哉 (1995) 1994年読書アンケート. みすず, 406:55.
- 640) 川那部浩哉 (1995) 地球共生系とはなにか. 東大新報 1995/2/5. 京大学生新聞 1995/2/20.
- 641) 川那部浩哉 (1995) まずは手薄な地域の調査の促進から. 地域研ニュース, 1:6.
- 642) 柳沢康信; 遊磨正秀; 川那部浩哉 (1995) タンガニカ湖の魚類を中心とする生物群集の多様性. 学術月報, 48:47-53.
- 643) 川那部浩哉 (1995) 失われる「命」の賑わい: 「相互関係」で多様化. 信濃毎日新聞 1995/3/30.
- 644) 川那部浩哉・石井伸博 (1995) 生物の多様性を促進することから、地球共生系はさらに進化する. Big Smile, 10: 6-7.
- 645) 川那部浩哉; 遊磨正秀, 編 (1995) 生態学から見た安定社会: 安定と攪乱: 淡水域の生物群集から. 207 pp. 京都ゼミナ - ルハウス, 京北.
- 646) 川那部浩哉 (1995). セミナ - 開会にあたって. In: 生態学から見た安定社会: 安定と攪乱: 淡水域の生物群集から. (ed. by 川那部浩哉; 遊磨正秀), 7-8. 京都ゼミナ - ルハウス, 京北.
- 647) 川那部浩哉; 秋道智弥; 渡辺賢二; 遊磨正秀; 横山俊夫; ほか (1995). 川、そこに住む生き物と暮らすひと. In: 生態学から見た安定社会: 安定と攪乱: 淡水域の生物群集から. (ed. by 川那部浩哉; 遊磨正秀), 114-179. 京都ゼミナ - ルハウス, 京北.
- 648) 川那部浩哉 (1995) 重点領域研究「地球共生系」を終えるに当たって1「これは単なる感想文です». Communication 地球共生系, 28:1-2.
- 649) 河合雅雄; 川那部浩哉; 高畑尚之; 陀安一郎; 箕浦幸治; 和田英太郎 (1995) 生物進化のメカニズムを探る. 創造の世界, 94: 40-60.
- 650) 川那部浩哉 (1995) 日本生物科学者協会誌「生物科学」農文協からの刊行にあたって. 出版ダイジェスト, 556: 7.
- 651) 川那部浩哉 (1995) 生物多様性保全をめぐる. 野生生物保全論研究会会報, 3: 1-4.

- 652) 川那部浩哉 (1995). 生物多様性にみる新しい科学理念. In: 文化震源地亜州. (ed. by 許介麟), 131-144. 台湾大学日本総合研究中心, 台北.
- 653) 川那部浩哉 (1995) はじめに. 京都大学生態学研究センター・ニュース, 29: 1.
- 654) 川那部浩哉 (1995) 第3期目を迎えるにあたって. 京都大学生態学研究センター・ニュース, 30: 1-2.
- 655) 川那部浩哉; 近藤高貴 (1995) 生態学. ブリタニカ国際大百科事典, 10: 351-361.
- 656) 和田英太郎; 川那部浩哉 (1995) 第25回国際生物科学連合総会及び生物多様性フォーラム. 学術月報, 48: 888-889.
- 657) Kawanabe, H.; Wada, E. (1995) DIVERSITAS in Western Pacific and Asia (DIWPA) - An international network -. Biology International, 31: 30-32.
- 658) 川那部浩哉 (1995) 地球共生系とはなにか? In: 地球共生系、多様な生物の共存する仕組み (ed. by 第9回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会), 8-16. クバプロ, 東京. (『生物界における共生と多様性』(1996)所収)
- 659) 遠藤彰; 川那部浩哉; 石川統; 井上民二; 川端善一郎; 箕浦幸治; 高林純爾 (1995) パネルディスカッション: 再び「地球共生系とは?」 In: 地球共生系、多様な生物の共存する仕組み (ed. by 第9回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会), 162-174. クバプロ, 東京.
- 660) 川那部浩哉 (1995) 本講演会のまとめと展望. In: 地球共生系、多様な生物の共存する仕組み (ed. by 第9回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会), 187-190. クバプロ, 東京. (『生物界における共生と多様性』(1996)所収)
- 661) 川那部浩哉 (1995) 「もの」は「こと」が作り上げる. In: 森の教室、生きもの讃歌 (ed. by 久山喜久雄), 217-225. 淡交社, 京都.
- 662) 川那部浩哉 (1995) 中山茂代表編集『通史日本の科学技術』. 毎日新聞 1995/11/3.
- 663) Kawanabe, H. (1995) Linkage between ecological complexity and biodiversity. In: Biodiversity, Science and Development (ed. by di Castri, F.; Younes, T.). pp. 149-152. CAB International, Wallingford, UK.
- 664) 川那部浩哉 (1995) 生きものどうしの関係をどう見てきたか. In: 日本の自然地域編 5 近畿 (ed. by 大場秀章; 藤田和夫; 鎮西清高), 149-152. 岩波書店, 東京. (『生物界における共生と多様性』(1996)所収)
- 665) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「新日本古典文学大系 71 元禄俳諧集」. 産経新聞 1995/1/10.
- 666) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「アイヌモシリに集う」二風谷フォーラム実行委員会編. 産経新聞 1995/1/24.
- 667) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「ダーウイニズム論集」八杉龍一編訳. 産経新聞 1995/2/7.
- 668) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「ありふれた老い」松下竜一著. 産経新聞 1995/2/21.
- 669) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「新潮日本文学アルバム 石川淳」. 産経新聞 1995/3/7.
- 670) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「鉄道ゲージ戦争」小池滋著/鈴木伸一絵. 産経新聞 1995/3/21.
- 671) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「小説琉球処分」大城立裕著. 産経新聞 1995/4/4.
- 672) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「西行花伝」辻邦生著. 産経新聞 1995/4/18.
- 673) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「分子進化学への招待」宮田隆著. 産経新聞 1995/5/2.
- 674) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「日本の天然記念物」加藤陸奥雄・沼田真・渡部景隆・畑正憲編. 産経新聞 1995/5/16.
- 675) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「バルカン=エクスプレス」ドラクリッチ著/三谷恵子訳. 産経新聞 1995/5/30.
- 676) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「戦争の記憶」ブルマ著/石井信平訳. 産経新聞 1995/6/13.
- 677) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「シャーロキアン殺人事件」パウチャー著/仁賀克雄訳. 産経新聞 1995/6/27.
- 678) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「遊心譜」宮崎市定著. 産経新聞 1995/7/11.

- 679) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「叢書江戸文庫 人情本集」. 産経新聞 1995/7/25.
- 680) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「生命と主体」ヴァイツゼッカー著 / 木村敏訳 . 産経新聞 1995/8/8.
- 681) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「作曲家の生活」三宅榛名著 . 産経新聞 1995/8/22.
- 682) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「生物多様性」堂本暁子著 . 産経新聞 1995/9/5.
- 683) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「ウナギと山芋」丸谷オ一著 . 産経新聞 1995/9/19. .
- 684) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「戦後を読む：50冊のフィクション」佐高信著 . 産経新聞 1995/10/3
- 685) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた：子どもたちのチェルノブイリ」前川憲司訳 . 産経新聞 1995/10/17.
- 686) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「鼻行類」シュテュンブケ著 / 日高敏隆・羽田節子訳 . 産経新聞 1995/10/31.
- 687) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「商人たちの共和国」黒田美代子著 . 産経新聞 1995/11/14. .
- 688) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「ヤミ市：幻のガイドブック」松平誠著 . 産経新聞 1995/12/12.
- 689) 川那部浩哉 (1995) 川那部浩哉が読む「江戸の世に遊ぶ」坂井輝久編著 . 産経新聞 1995/12/26.
- 690) 川那部浩哉 ; 中村泰三 ; 藤本和貴夫 (1995) 環日本海アカデミック・第1セッション「学術研究」. In フォーラム環日本海アカデミック・フォーラム創設会議の記録, 1-33. 環日本海アカデミック・フォーラム, 京都.

KIKUZAWA, Kihachiro 菊沢喜八郎

- 1) 菊沢喜八郎・渡辺弘之・パイラット・サイチュアエ・四手井綱英 (1965) 林床無脊椎動物の現存量について . 京都大学農学部演習林報告 37:25-38.
- 2) 菊沢喜八郎・渡辺弘之・四手井綱英 (1965) 森林の落葉層および、表層土中に棲息する無脊椎動物の、個体数および現存量の季節変動について . 76回日本林学会講演集 131-133.11.
- 3) 菊沢喜八郎・四手井綱英 (1966) 森林節足動物の密度および現存量の推定方法について . 日本生態学会誌 16:24-28.
- 4) Kikuzawa, K., Saichuae, P., Nijima, K., Tanaka, M. & Aoki, J. (1967) On the sampling and extracting technique for soil arthropods. Japanese Journal of Ecology 7:20-28.
- 5) 菊沢喜八郎・四手井綱英 (1967) 京都附近のアカマツ林における節足動物の現存量について . 京都大学農学部演習林報告 39:1-8.
- 6) 渡辺弘之・菊沢喜八郎・四手井綱英 (1968) ブナ天然林における大型土壌動物の密度および現存量の推定法について . 京都大学農学部演習林報告 40:1-6.
- 7) 菊沢喜八郎 (1968) I B P エリア内の土壌小動物の空間分布について . Edaphonologia 2:2-6.
- 8) Kikuzawa, K. & Furuno, T. (1968) The estimation of population density of the pine caterpillar, *Dendrolimus spectabilis* Butler. Bulletin of Kyoto University Forest 40:7-15.
- 9) Kikuzawa, K. & Furuno, T. (1967) Production study of the population of the pine caterpillar (*Dendrolimus spectabilis* Butler). Bulletin of Kyoto University Forest 42:16-26.
- 10) 菊沢喜八郎 (1973) アカマツ林の亜硫酸ガスによる煙害について . 日本林学会誌 55:182-184.
- 11) 浅井達弘・菊沢喜八郎 (1973) コバノヤマハンノキの密度試験 (II) . 84回日本林学会講演集 202-203.
- 12) 菊沢喜八郎・浅井達弘 (1974) 日高地方の広葉樹林の施業試験 . 北海道林業技術研究発表論文集 (昭和48年度) 101-103.
- 13) 高橋幸男・浅井達弘・菊沢喜八郎 (1974) 名寄のシラカンバ林の現存量について . 北海道林業試験場報告 12:29-37.

- 14) 浅井達弘・菊沢喜八郎(1974) コバノヤマハンノキの密度試験(III) . 85 回日本林学会講演集 16.
- 15) 菊沢喜八郎・浅井達弘(1974) 北海道日高地方の広葉樹林の林分構造について . 85 回日本林学会講演集 160-161.
- 16) 菊沢喜八郎(1975) Fauna japonica Protura (今立源太良著) 「書評」 Edaphonologia 9:55-56.
- 17) Kikuzawa,K. (1976) Structure and growth of young deciduous hardwood forest stand in Hokkaido. Bulletin of Hokkaido Forest Experiment Station 14:17-26.
- 18) 菊沢喜八郎(1976) ヒロハハコヤナギの葉と芽の樹脂腺の形態、季節変化および機能 . 日本林学会誌 57:133-134.
- 19) 浅井達弘・菊沢喜八郎・北条貞夫(1976) 針広混交林の施業試験(I) - 林分の概況について - . 87 日本林学会論文集 163-164.
- 20) 菊沢喜八郎・浅井達弘・北条貞夫(1976) 山火再生林の現存量と生長量 . 87 日本林学会論文集 221-222.
- 21) 浅井達弘・菊沢喜八郎(1976) コバノヤマハンノキ林の落葉量 . 日本林学会北海道支部講演集 25:3-520.
- 22) 菊沢喜八郎(1976) ケヤマハンノキの葉の生命表 . 日本林学会北海道支部講演集 25:6-8.
- 23) 水井憲雄・菊沢喜八郎・浅井達弘・斎藤満・北条貞夫(1976) トドマツの林内更新に関する研究(I) - 種子の落下量と稚苗の消長 - . 日本林学会北海道支部講演集 25:27-30.
- 24) 菊沢喜八郎・浅井達弘・北条貞夫(1976) 落葉広葉樹林の間伐試験 . 日本林学会北海道支部講演集 25:51-53.
- 25) 菊沢喜八郎 共編、共著(1976) 北海道の森林植物図鑑 北海道国土緑化推進委員会
- 26) 菊沢喜八郎(1977) ケヤマハンノキの開葉と新条の伸び方 . 光珠内季報 31:8-10.
- 27) 浅井達弘・菊沢喜八郎(1976) 道有林浦幌経営区における天然生林と地形について 北海道林業技術研究発表論文集(昭和49年度) 68-72.
- 28) 水井憲雄・浅井達弘・菊沢喜八郎(1976) トドマツの天然更新に関する研究(1) 固定試験地の概況 . 北海道林業技術研究発表論文集(昭和49年度) 99-102.
- 29) 菊沢喜八郎(1976) 樹木だよりサワフタギ . 光珠内季報 29:7.
- 30) 菊沢喜八郎・水井憲雄・浅井達弘・北条貞夫(1977) 発生後2年間のトドマツ稚苗の消失経過 88 日本林学会論文集 211-212.
- 31) 菊沢喜八郎・浅井達弘・北条貞夫(1977) 北海道中西部における広葉樹二次林の動態 . 88 日本林学会論文集 213-214.
- 32) 菊沢喜八郎・浅井達弘・東浦康友(1977) ナミスジフユナミシヤクの食害を受けたコバノヤマハンノキの葉量変化 . 88 日本林学会論文集 317-318.
- 33) 浅井達弘・菊沢喜八郎・北条貞夫(1976) 道有林浦幌経営区 98 林班の天然生林の概況 . 北海道林業技術研究発表論文集(昭和50年度) 91-92.
- 34) 菊沢喜八郎(1976) 日高地方の広葉樹林の生長量 . 北海道林業技術研究発表論文集(昭和50年度) 118-120.
- 35) 水井憲雄・菊沢喜八郎・浅井達弘・北条貞夫(1976) トドマツの林内更新に関する研究(2) 稚苗の消失について . 北海道林業技術研究発表論文集(昭和50年度) 121-122.
- 36) 菊沢喜八郎(1977) 広葉樹林施業に関する生態学的研究(I) - 広葉樹林の収量 - 密度図 - . 日本林学会北海道支部講演集 26:48-50.
- 37) 菊沢喜八郎(1977) 広葉樹林施業に関する生態学的研究(II) - ミズナラ型林分の収量 - 密度図 - . 日本林学会北海道支部講演集 26:51-54.
- 38) 菊沢喜八郎・浅井達弘・北条貞夫(1977) 広葉樹林の現存量と生長量 . 日本林学会北海道支部講演集 26:55-57.
- 39) 菊沢喜八郎(1977) 樹木だよりオオカメノキの花 . 光珠内季報 32:9.
- 40) 浅井達弘・菊沢喜八郎・北条貞夫(1977) 道有林浦幌経営区における天然生林の生長とその地形について . 北海道林業技術研究発表論文集(昭和51年度) 111-113.
- 41) 菊沢喜八郎(1976) 広葉樹林のへ葉量と落葉量 . 北海道林業技術研究発表論文集(昭和51年度) 144-145.
- 42) 菊沢喜八郎(1978) 北海道における天然生広葉樹林の収量 - 密度図 . 日本林学会誌 60:56-63.

- 43) Kikuzawa, K. (1978) Emergence, defoliation and longevity of alder (*Alnus hirsuta* TURCZ.) leaves in a deciduous hardwood forest stand. Japanese Journal of Ecology 28:299-306.
- 44) 菊沢喜八郎、浅井達弘 (1978) 日高地方における広葉樹林の林分構造と生長量。北海道林業試験場報告 16:1-17.
- 45) 菊沢喜八郎 (1978) トドマツ人工林における限界直径点のうごき。日本林学会誌 60:313-314.
- 46) 菊沢喜八郎 (1978) 広葉樹の葉の生存曲線。遺伝 32(8):57-62.
- 47) 菊沢喜八郎 (1978) 数種広葉樹の葉の生存曲線。89 日本林学会論文集 187-188.
- 48) 菊沢喜八郎 (1978) 広葉樹林施業に関する生態学的研究 (III) - 収量 - 密度図を利用した収穫予測 - 。日本林学会北海道支部講演集 27:9-11.
- 49) 菊沢喜八郎・浅井達弘・福地稔 (1978) 広葉樹二次林の林分構造と生長量。日本林学会北海道支部講演集 27:12-14.
- 50) 菊沢喜八郎・浅井達弘・水井憲雄 (1978) トドマツの林内更新に関する研究 (II) - 4年間の稚苗の消失経過 - 。日本林学会北海道支部講演集 27:15-17.
- 51) 菊沢喜八郎 (1978) 広葉樹林の林分構造。北方林業 30:35-38.
- 52) 菊沢喜八郎・斎藤新一郎 (1978) 広葉樹の二次伸長。北方林業 30:241-244.
- 53) 菊沢喜八郎 (1978) 広葉樹二次林の保育について。北海道林業技術研究発表論文集 (昭和52年度) 44-46.
- 54) 水谷栄一・菊沢喜八郎・浅井達弘・加納博 (1978) 有珠山噴火による森林被害の実態。北海道林業技術研究発表論文集 (昭和52年度) 162-164.
- 55) 菊沢喜八郎 (1978) 樹木だより ナニワズ 光珠内季報 35:7.
- 56) 中田圭亮・東浦康友・菊沢喜八郎 (1978) 美唄でメジロの巣を確認。野鳥だより 32:9.
- 57) Kikuzawa, K., Asai, T. & Higashiura, Y. (1979) Leaf production and the effect of defoliation by the larval population of the winter moth, *Operophtera brumata* L. in an alder (*Alnus inokumae* MURAI et KUSAKA) stand. Japanese Journal of Ecology 29:111-120
- 58) 菊沢喜八郎・浅井達弘・福地稔・水谷栄一 (1979) 広葉樹二次林の林分構造と生長量 (I) 道有林岩見沢経営区の例。北海道林業試験場報告 17:1-11.
- 59) 水井憲雄・菊沢喜八郎・浅井達弘 (1979) トドマツ人工林の天然下種更新 (I) - 4年間の稚苗消長について - 。北海道林業試験場報告 17:13-22.
- 60) 菊沢喜八郎 (1979) 収量 - 密度図を利用した収穫予測の試み。日本林学会誌 61:429-436.
- 61) 菊沢喜八郎・浅井達弘・水井憲雄 (1979) 河川敷地に植栽されたポプラ。光珠内季報 40:14-15.
- 62) 浅井達弘・菊沢喜八郎 (1979) カラマツの枝打ちに関する研究 (I) - 若齢個体の枝の寿命 - 。90 日本林学会論文集 293-294.
- 63) 菊沢喜八郎 (1979) シラカンバの葉の生存曲線 - 密度との関係について (I) - 。90 日本林学会論文集 317-318.
- 64) 菊沢喜八郎 (1979) 広葉樹林施業に関する生態学的研究 (IV) - ミズナラ林の収穫予想表 - 。日本林学会北海道支部講演集 28:31-33. li>65) 浅井達弘・福地稔・菊沢喜八郎・水谷栄一 (1979) アカエゾマツの枝打ちに関する研究 (I) - 枝階別の枝葉量とその推定方法 - 。日本林学会北海道支部講演集 28:39-41.
- 66) 菊沢喜八郎 (1979) 広葉樹林の保育。光珠内季報 39:2-17.
- 67) 菊沢喜八郎 (1979) 新刊紹介 落広葉樹図譜 冬の樹木学。日本林学会誌 61:7.
- 68) 菊沢喜八郎 (1979) 樹木だよりハクウンボク。光珠内季報 39:38.
- 69) 菊沢喜八郎・長船輝男・小池幸治 (1979) 日高地方の広葉樹林の落葉量。北海道林業技術研究発表論文集 (昭和53年度) 104-105.
- 70) 菊沢喜八郎・福地稔・浅井達弘・水谷栄一 (1979) トドマツの林内更新に関する研究 (IV) 各地の実態調査の結果から。北海道林業技術研究発表論文集 (昭和53年度) 113-114.
- 71) 福地稔・菊沢喜八郎・浅井達弘・水谷栄一 (1980) トドマツの林内更新に関する研究 (V) 稚苗の生長と日光量との関係。北海道林業技術研究発表論文集 (昭和53年度) 115-116.
- 72) 浅井達弘・福地稔・菊沢喜八郎・水谷栄一 (1980) 道有林浦幌経営区の針広混交林における間伐後の生長。北海道林業技術研究発表論文集 (昭和53年度) 157-158.

- 73) 菊沢喜八郎・福地稔・水谷栄一・浅井達弘(1980) トドマツ人工林の天然下種更新(II) - 林内更新のための施業指針 - . 北海道林業試験場報告 18:11-23.
- 74) 浅井達弘・菊沢喜八郎・福地稔・水谷栄一(1980) 浦幌地方の天然生針広混交林の林分構造と生長量 . 北海道林業試験場報告 18:25-41.
- 75) 菊沢喜八郎(1980) ハンノキ属の葉はなぜ夏に落ちるか . 日本生態学会誌 30:359-368.
- 76) 菊沢喜八郎(1980) 秋田スギ人工林における等限界直径線の二、三の性質 . 日本林学会誌 62:234-237.
- 77) 菊沢喜八郎(1980) 樹木だよりミヤマハンノキ枝と冬芽 . 光珠内季報 43:15.
- 78) 菊沢喜八郎(1980) 二重根エゾヨモギ . 光珠内季報 43:19.
- 79) 菊沢喜八郎(1981) 間伐効果に関する定量的研究(I) 収量 - 密度図を用いた分析 . 日本林学会誌 63:51-59.
- 80) 中内武五郎・菊沢喜八郎(1980) 美唄の植物 . 美唄市 .
- 81) 菊沢喜八郎(1980) トドマツ人工林の天然下種更新 - 固定試験地での調査結果 - . 光珠内季報 44:5-8.
- 82) 菊沢喜八郎(1980) トドマツ人工林における新しいタイプの収量 - 密度図 . 日本林学会北海道支部講演集 29:30-31.
- 83) 浅井達弘・福地稔・菊沢喜八郎・水谷栄一(1980) アカエゾマツの枝打ちに関する研究(II) - 枝打ち後2年間の生長 - . 日本林学会北海道支部講演集 29:38-40.
- 84) 菊沢喜八郎・高橋幸雄・水井憲雄・浅井達弘・福地稔・水谷栄一(1980) ウダイカンバ林の生長量 . 日本林学会北海道支部講演集 29:46-48.
- 85) 福地稔・菊沢喜八郎・浅井達弘・水谷栄一(1980) トドマツの林内更新に関する研究(IV) - 稚苗の刈り出し効果について - . 日本林学会北海道支部講演集 29:52-53.
- 86) 菊沢喜八郎(1980) 間伐と大径木生産(I) . 林業統計研究会誌 5:33-36.
- 87) Kikuzawa, K. 1981. Yield-density diagram for Todo-fir plantations (I) A new Y-N curve based on the Beta-type distribution. Journal of Japanese Forestry Society 63: 442-450.
- 88) 菊沢喜八郎(1980) シラカンバの葉の数の季節的变化 - 実験的研究 - . 北海道林業試験場報告 19:93-104.
- 89) 浅井達弘・菊沢喜八郎・福地稔(1981) コバノヤマハンノキ林分の落葉枝量の年変化 . 北海道林業試験場報告 19:105-114.
- 90) 菊沢喜八郎(1981) カラマツ林の間伐効果 . 山づくり 273:2-4.
- 91) 清和研二・菊沢喜八郎・久保田泰則(1981) トドマツの密度試験(II) - 材積・直径の頻度分布形と密度について - . 日本林学会北海道支部講演集 30:44-46.
- 92) 水井憲雄・菊沢喜八郎・福地稔・水谷栄一(1981) トドマツの林内更新に関する研究(V) - 8年間の稚苗消長 - . 日本林学会北海道支部講演集 30:33-35.
- 93) 福地稔・菊沢喜八郎・水井憲雄・水谷栄一(1981) トドマツの枝打ちに関する研究(I) - 枝打ち程度と2生育期間の生長 - . 日本林学会北海道支部講演集 30:36-38.
- 94) 菊沢喜八郎(1981) トドマツ人工林の収量 - 密度図 - 単木の直径生長について - . 日本林学会北海道支部講演集 30:39-40.
- 95) 菊沢喜八郎(1981) 間伐と大径木生産(II) . 林業統計研究会誌 6:13-15.
- 96) 菊沢喜八郎(1981) 常緑樹と落葉樹 . 北国の園芸 5(3):61-64.
- 97) 菊沢喜八郎(1981) 間伐効果の考え方 . 北海道林業技術研究発表論文集(昭和55年度) 5.
- 98) 浅井達弘・福地稔・菊沢喜八郎・水谷栄一(1981) アカエゾマツの枝打ち . 北海道林業技術研究発表論文集(昭和55年度) 128-129.
- 99) Kikuzawa, K. (1982) Leaf survival and evolution in Betulaceae. Annals of Botany, 50:345-353.
- 100) Kikuzawa, K. (1982) Yield-density diagram for natural deciduous broad-leaved forest stands. Forest Ecology & Management 4:341-358.
- 101) 菊沢喜八郎・浅井達弘・福地稔・水井憲雄・水谷栄一(1982) 広葉樹二次林の林分構造と生長量(II) 道有林苫小牧経営区の例 . 北海道林業試験場報告 20:63-68.
- 102) 福地稔・水井憲雄・菊沢喜八郎・水谷栄一(1982) トドマツ人工林の天然下種更新(III) 固定試験地における8年間の稚苗の推移 . 北海道林業試験場報告 20:21-29.
- 103) 浅井達弘・菊沢喜八郎・福地稔・水谷栄一(1982) カラマツ人工林の枝打ち試験 . 北海道林業試験場報告 20:45-61.

- 104) 菊沢喜八郎(1982) トドマツ人工林の天然下種更新 - 更新のための施業指針 - . 光珠内季報 52:18-22.
- 105) 菊沢喜八郎(1982) 広葉樹林施業に関する生態学的研究(V) - 単木の直径生長 - . 日本林学会北海道支部講演集 31:24-26.
- 106) 福地稔・菊沢喜八郎・浅井達弘・水谷栄一(1982) トドマツの林内更新に関する研究(VI) 稚苗の刈りだしについて. 北海道林業技術研究発表論文集(昭和56年度) 128-129.
- 107) 水井憲雄・菊沢喜八郎・水谷栄一・福地稔(1982) トドマツ人工林の間伐試験(1) 収量 - 密度図を利用した収穫予測. 北海道林業技術研究発表論文集(昭和56年度) 140-141.
- 108) 阿部信行・菊沢喜八郎(1983) 間伐効果に間伐に関する定量的研究(II) ベータ型Y-N曲線による間伐試験林分の解析. 日本林学会誌 65:207-214.
- 109) Kikuzawa, K. (1983) Yield-density diagram for Todo-fir plantations (II) Diameter growth of individual trees in unthinned stands. Journal of Japanese Forestry Society 65:52-56.
- 110) Kikuzawa, K. (1983) Leaf survival of woody plants in deciduous broad leaved forests. Canadian Journal of Botany 61:2133-2139.
- 111) Kikuzawa, K. (1983) Yield-density diagram: compactness index for stands and stand components. Forest Ecology and Management 7:1-10.
- 112) 菊沢喜八郎(1983) 林分の緊密度とそれを応用した収量 - 密度図の改良. 北海道林業試験場報告 21:1-7.
- 113) 菊沢喜八郎(1983) 北海道の広葉樹林. 北海道造林振興協会
- 114) 福地稔・水井憲雄・菊沢喜八郎(1983) カラマツ人工林の生長と品質. 日本林学会北海道支部講演集 32:55-57.
- 115) 菊沢喜八郎・水井憲雄・福地稔(1983) 山火事跡再生林の10年間の動き. 日本林学会北海道支部講演集 32:43-44.
- 116) Kikuzawa, K., Asai, T. & Fukuchi, M. (1984) Leaf-litter production in a plantation of *Alnus inokumae*. Journal of Ecology 72:993-999.
- 117) 菊沢喜八郎(1984) 山火事跡広葉樹二次林の動態. 北海道林業試験場報告 22:11-17.
- 118) Kikuzawa, K. (1984) Leaf survival of woody plants in deciduous broad-leaved forests. 2. Small trees and shrubs. Canadian Journal of Botany 62:2551-2556.
- 119) 菊沢喜八郎(1984) 若いダケカンバ林における本数 - 材積の関係. 日本林学会北海道支部講演集 33:17-19.
- 120) 宮木雅美・菊沢喜八郎(1984) 野ネズミによるドングリの運搬と貯蔵. 森林保護 183:34-36.
- 121) 福地稔・水井憲雄・菊沢喜八郎(1984) 樹齢にともなうカラマツ樹幹の曲がりの回復について. 北海道林業技術研究発表論文集(昭和58年度) 64-65.
- 122) 菊沢喜八郎(1985) 民有林の広葉樹 - 優良材を生産するために - . 北の森づくり 3:8-11.
- 123) 福地稔・水井憲雄・菊沢喜八郎(1985) カラマツ幹曲りのみかけの回復. 96 日本林学会論文集 411-412.
- 124) 菊沢喜八郎・水井憲雄・清和研二・浅井達弘(1985) 広葉樹の樹冠投影面積と直径生長 - 12年間の変化 - . 日本林学会北海道支部論文集 34:36-37.
- 125) 清和研二・菊沢喜八郎(1985) 広葉樹の種子サイズと当年生稚苗の生長パターン. 日本林学会北海道支部論文集 34:83-85.
- 126) 水井憲雄・浅井達弘・菊沢喜八郎・清和研二(1985) トドマツ枝枯病被害に対する融雪促進の効果. 日本林学会北海道支部論文集 34:101-103.
- 127) 菊沢喜八郎(1985) 収量 - 密度図の理論と応用. 林業統計研究会誌 10:63-73.
- 128) Kikuzawa, K., Asai, T., Mizui, N. & Seiwa, K. (1986) Optimum tree sizes and density in relation to crown volume in an alder plantation. Proc. Crown Structure in Relation to Productivity (ed. Fujimori, T. & Whitehead, D.) 93-103.
- 129) 菊沢喜八郎(1986) 葉の生存戦略. 日本生態学会誌 36:189-203.
- 130) 菊沢喜八郎(1986) 北の国の雑木林. 蒼樹書房
- 131) 清和研二・菊沢喜八郎(1986) カラマツ人工林の収量 - 密度図. 北方林業 38:320-324.
- 132) 水井憲雄・浅井達弘・菊沢喜八郎・清和研二(1986) 融雪促進によるトドマツ枝枯病の被害防除. 北方林業 38:57-60.

- 133) 浅井達弘・菊沢喜八郎・水井憲雄・清和研二 (1986) 極相に近い針広混交林分にみられた枯死木の特徴. 97 日本林学会論文集 291-292.
- 134) 清和研二・浅井達弘・水井憲雄・菊沢喜八郎 (1986) カラマツ人工林の間伐試験 - 強度間伐の有効性 -. 日本林学会北海道支部論文集 35:122-124.
- 135) 菊沢喜八郎 (1986) ダケカンバ林の最多密度曲線. 日本林学会北海道支部論文集 35:125-127.
- 136) 新田紀敏・菊沢喜八郎 (1986) 山火事跡広葉樹二次林の育成試験 - 生長量と間伐の効果 -. 日本林学会北海道支部論文集 35:153-155.
- 137) 菊沢喜八郎 (1986) 広葉樹の有用材生産技術の確立. 山林 (8):40-44.
- 138) 菊沢喜八郎 (1986) 広葉樹の有用材生産技術. 第 19 回林業技術シンポジウム 全国林業試験研究機関協議会 3-16.
- 139) 菊沢喜八郎・宮木雅美・水井憲雄 (1986) ドングリとネズミ類. 北方林業 38:198-200.
- 140) 宮木雅美・菊沢喜八郎 (1986) ネズミ類とドングリ - ミズナラの天然更新と関連して (2) -. 北方林業 38:271-274.
- 141) 菊沢喜八郎 (1986) 落広葉樹林施業 (1). 「天然林施業」56-64.
- 142) Kikuzawa, K. (1987) Development and survival of leaves in *Magnolia obovata* in a deciduous broad-leaved forest in Hokkaido, northern Japan. Canadian Journal of Botany 65:412-417.
- 143) 菊沢喜八郎 (1987) ヨーロッパトウヒの間伐試験. 北海道林業試験場報告 25:28-35.
- 144) Kikuzawa, K. (1987) Regeneration and stand-density control in juvenile birch stands in the subalpine zone of Hokkaido. Proc. Human Impacts and Management of Mountain Forests (ed. by Fujimori, T. & Kimura, M.) 305-314.
- 145) Asai, T., Kikuzawa, K., Mizui, N. & Seiwa, K. (1987) Regeneration of coniferous and broad-leaved trees in natural mixed forest in eastern Hokkaido, Japan. Proc. Human Impacts and Management of Mountain Forests (ed. by Fujimori, T. & Kimura, M.) 351-359.
- 146) 清和研二・菊沢喜八郎 (1987) トドマツ人工林における樹木の大きさごとの空間分布の林齢にともなう変化. 日本林学会誌 68:465-471.
- 147) 水井憲雄・菊沢喜八郎・浅井達弘・清和研二 (1987) トドマツ人工林の間伐試験 (I) - 間伐後 4 年間の生長量と葉量の回復 -. 北海道林業試験場報告 25:18-27.
- 148) 清和研二・菊沢喜八郎 (1987) グイマツ雑種 F1 の特性と収量 - 密度図. 光珠内季報 66:11-16.
- 149) Kikuzawa, K. (1988) Intraspecific competition in a natural stand of *Betula ermanii*. Annals of Botany 61:727-734.
- 150) Kikuzawa, K. (1988) Dispersal of *Quercus mongolica* acorns in a broadleaved deciduous forest. 1. Disappearance. Forest Ecology and Management 25:1-8.
- 151) Miyaki, M. & Kikuzawa, K. (1988) Dispersal of *Quercus mongolica* acorns in a broadleaved deciduous forest. 2. Scatterhoading by mice. Forest Ecology and Management 25:9-16.
- 152) Kikuzawa, K. (1988) Leaf survivals of tree species in deciduous broad-leaved forests. Plant Species Biology, 3:67-76.
- 153) 菊沢喜八郎 (1988) 森と私たち (分担執筆) 北海道自然保護協会
- 154) 豊田倫明・原口聡・菊沢喜八郎・浅井達弘・橋場一行・山本敏夫 (1988) トドマツ人工林間伐の手引 北海道林業改良普及協会
- 155) 浅井達弘・菊沢喜八郎・水井憲雄・清和研二 (1988) 浦幌地方の針広混交林の林分構造 - 地形別固定調査地の 11 年間の動態 -. 日本林学会北海道支部論文集 36:63-65.
- 156) 菊沢喜八郎・浅井達弘・水井憲雄・浅井達弘 (1988) ヨーロッパトウヒ間伐試験林の林内照度. 日本林学会北海道支部論文集 36:118-120.
- 157) 菊沢喜八郎・浅井達弘・水井憲雄・清和研二 (1988) ウダイカンバ林の落葉量 - 間伐後の葉量回復の推定 -. 日本林学会北海道支部論文集 36:121-123.
- 158) 渋谷正人・菊沢喜八郎 (1988) ウダイカンバ林の収量 - 密度図 日本林学会北海道支部論文集 36:124-126.
- 159) 清和研二・菊沢喜八郎・浅井達弘・水井憲雄 (1988) カラマツ人工林における機械枝打ちの工期と枝の巻き込み. 99 日本林学会論文集 409-410.
- 160) 菊沢喜八郎 (1988) 植物は生きている - 伸長と開葉の特性 - 植物の世界 (2) :46-47.

- 161) 菊沢喜八郎 (1988) 北海道における複層林施業の実例 (1) カラマツ - トドマツ . 林業技術 559(10):19-22.
- 162) 菊沢喜八郎 (1988) 北海道における複層林施業の実例 (2) 同種複層林 (トドマツ - トドマツ / カラマツ - カラマツ) 林業技術 559(11):22-24.
- 163) 菊沢喜八郎 (1988) 若いダケカンバ林の本数・材積の推移 光珠内季報 73:11-15.
- 164) 菊沢喜八郎 (1988) 複層林施業 北海道 林業新知識 420:9.
- 165) 菊沢喜八郎 (1988) 掻き起こしによるカンバ林の更新 . 山づくり (1988) 10-11.
- 166) 清和研二・菊沢喜八郎 (1989) 落葉広葉樹の種子重と当年生稚苗の季節的伸長様式 日本生態学会誌 39:5-15.
- 167) Kikuzawa, K. (1989) Floral biology and evolution of gynodioecism in *Daphne kamtchatica* var. *jezoensis*. Oikos 56:196-202.
- 168) Kikuzawa, K. (1989) Ecology and evolution of phenological pattern, leaf longevity and leaf habit. Evolutionary Trends in Plants 3:105-110.
- 169) 寺沢和彦・清和研二・薄井五郎・菊沢喜八郎 (1989) 滞水土壤条件下での広葉樹稚苗の生育反応(I) - 生育、ならびに幹、根の形態的变化 - . 100 日本林学会論文集 439-440.
- 170) 道上裕司・水井憲雄・菊沢喜八郎 (1989) イタヤカエデの開花・結実特性について 日本林学会北海道支部論文集 37:30-32.
- 171) 菊沢喜八郎 (1989) 若いダケカンバ林における除伐の効果 日本林学会北海道支部論文集 37:49-51.
- 172) 菊沢喜八郎・田中進 (1989) しいたけ原木林 (ミズナラ) 収量 - 密度図 日本林学会北海道支部論文集 37:84-86.
- 173) 水井憲雄・菊沢喜八郎・浅井達弘・清和研二 (1990) トドマツ人工林の間伐試験 (II) - 間伐7年後の葉量と葉齢構成 - . 北海道林業試験場報告 28:75-88.
- 174) Kikuzawa, K. & Mizui, N. (1990) Flowering and fruiting phenology of *Magnolia hypoleuca*. Plant Species Biology 5:255-261.
- 175) Hara, T., van Rijnberk, H., Doring, H., Yokozawa, M. & Kikuzawa, K. (1990) Competition process and spatial pattern formation in a *Betula ermanii* population. Spatial Processes in Plant Communities. SPB Academic Publishing, The Hague. 127-143.
- 176) Seiwa, K. & Kikuzawa, K. (1991) Phenology of tree seedlings in relation to seed size. Canadian Journal of Botany 69:532-538.
- 177) 菊沢喜八郎 (1990) 林内相対照度の評価関数 - 複層林の立場から - . 日本林学会北海道支部論文集 38:26-28.
- 178) 寺沢和彦・清和研二・菊沢喜八郎 (1990) 滞水土壤条件下での広葉樹稚苗の生育反応(II) - 葉の展開と落葉 - . 101 日本林学会論文集 253-254.
- 179) Kikuzawa, K. (1991) A cost-benefit analysis of leaf habit and leaf longevity of trees and their geographical pattern. American Naturalist 138:1250-1263.
- 180) Mizui, N. & Kikuzawa, K. (1991) Proximate limitations to fruit and seed set in *Phellodendron amurense* var. *sachalinense*. Plant Species Biology 6:39-46.
- 181) Hara, T., Kimura, M. & Kikuzawa, K. (1991) Growth patterns of tree height and stem diameter in populations of *Abies veitchii*, *A. mariesii* and *Betula ermanii*. Journal of Ecology 79:1085-1098
- 182) Kikuzawa, K. (1991) Patterns of leaf emergence and environmental stability. Evolutionary Trends in Plants 5:33-34.
- 183) 石田仁・菊沢喜八郎・浅井達弘・水井憲雄・清和研二 (1991) ギャップと閉鎖隣内における高木性各種稚幼樹の分布と伸長成長 - 北海道日高地方の針広混交林 - . 日本林学会誌 73:145-150.
- 184) 柳井清治・菊沢喜八郎 (1991) 播種実験によってみられたヤナギ属3種の発芽および生残特性 . 日本生態学会誌 41:145-148.
- 185) 菊沢喜八郎 (1991) ミズナラ「樹木だより」光珠内季報 85:23-25.
- 186) 菊沢喜八郎 (1991) 広葉樹林の収量 - 密度図 - Bポイント線と最多密度線 - . 日本林学会北海道支部論文集 39:8-10.
- 187) 菊沢喜八郎 (1991) 病虫害防除の現場からの視点 . 大串龍一著「天敵と農薬」「書評」生物科学 43:156-158.

- 188) 菊沢喜八郎 (1991) 林内の明るさをどう表すか - 複層林の立場から - . 光珠内季報 82:5-8.
- 189) 菊沢喜八郎 (1991) 物質生産の視点から . 森林科学 2:16-21.
- 190) Kikuzawa, K. (1992) A method to transform values of relative photon flux density in forest understory. *Func. Ecol.* 6:113-114.
- 191) 菊沢喜八郎 (1992) ホオノキ「樹木だより」光珠内季報 86:28-30.
- 192) 菊沢喜八郎 (1992) 大個体の位置図解析法によるミズナラ稚苗個体群の解析 . 日本林学会北海道支部論文集 40:80-82.
- 193) 水井憲雄・菊沢喜八郎 (1992) キタコブシ「樹木だより」光珠内季報 87:25-28.
- 194) 菊沢喜八郎 (1992) 植物と花粉媒介者 . 光珠内季報 88:14-17.
- 195) 菊沢喜八郎・水井憲雄 (1992) ベニイタヤ・イタヤカエデ「樹木だより」光珠内季報 89:20-23.
- 196) 水井憲雄・菊沢喜八郎 (1992) キハダ「樹木だより」光珠内季報 96:16-18.
- 197) 菊沢喜八郎・水井憲雄・小山浩正・梅木清 (1993) シラカンバ林における枝の枯れ上がりに関する研究 . 日本林学会北海道支部論文集 41:240-242.
- 198) 菊沢喜八郎 (1993) 葉の寿命の生態学 常緑性と落葉性「生態学からみた北海道」(東、阿部、辻井編) 79-87.
- 199) 菊沢喜八郎 (1993) - サイズ構造 - 森林はどのような大きさの木で構成されるか? 北方林業 45:235-238.
- 200) 山口陽子・菊沢喜八郎 (1993) マタタビ、サルナシ、ミヤママタタビ . 「樹木だより」光珠内季報 93:17-19.
- 201) 山口陽子・菊沢喜八郎 (1993) フッキソウ 「樹木だより」光珠内季報 97:16-18.
- 202) 菊沢喜八郎 (1993) 「林学のあり方」に関する私の意見 . 「林学のあり方」11-18. 「林学のあり方」検討委員会
- 203) Kikuzawa, K. (1993) Self-thinning line and B-point line of the yield-density diagram in a young birch stand. *Forest Ecology and Management* 58:287-298.
- 204) Terazawa, K. & Kikuzawa, K. (1994) Effects of flooding on leaf dynamics and other seedling responses in flood-tolerant *Alnus japonica* and flood-intolerant *Betula platyphylla* var. *japonica*. *Tree Physiology* 14:251-261.
- 205) 菊沢喜八郎 (1994) 北海道の森林と景観 . ランドスケープ研究 58:35-38.
- 206) 菊沢喜八郎 (1994) ナミスジフユナミシヤク「森林昆虫 総論・各論」(小林、竹谷編) 306.
- 207) 菊沢喜八郎 (1994) ツルシキミ「樹木だより」光珠内季報 94:14-16.
- 208) 菊沢喜八郎・東浦康友 (1994) 害虫の大発生とはなにか . 日本林学会北海道支部論文集 42:165-168.
- 209) 菊沢喜八郎 (1994) 大きい木や小さい木のあることが個々の木の成長・枯死を決めている . 光珠内季報 95:15-18.
- 210) 菊沢喜八郎 (1994) ケヤマハンノキ「樹木だより」光珠内季報 95:19-21.
- 211) Kikuzawa, K. (1995) Leaf phenology as an optimal strategy for carbon gain in plants. *Canadian Journal of Botany* 73:158-163.
- 212) Kikuzawa, K. & Kudo, G. (1995) Effects of favorable period length on the leaf life span of several alpine shrubs-Implication by the cost-benefit model. *Oikos* 73:214-220.
- 213) Kikuzawa, K. (1995) A report from terrestrial ecosystems of monsoon Asia. "An Interim Report of IGBP Activities in Japan" ed. by Japan National Committee for IGBP, Science Council of Japan.
- 214) 菊沢喜八郎 (1995) 落葉性とその由来 . 週間朝日百科 71:162-165.
- 215) 菊沢喜八郎 (1995) モジュール性の森林・林業における意義 . 森林科学 15:63-64.
- 216) 菊沢喜八郎 (1995) 植物の繁殖生態学 . 蒼樹書房 東京 283pp.
- 217) Kikuzawa, K., Umeki, K. & Koyama, H. (1995) Canopy surface morphology of birch stands. *Proceedings of IUFRO International Workshop on Sustainable Forest Management. The University Forests, The University of Tokyo.* 302-306.
- 218) 菊沢喜八郎 (1995) 一斉開葉と順次開葉 葉の開き方にみる樹木の戦略 . 植物の世界 90:190-192.

- 219) Kikuzawa, K. (1995) The adaptive significance of leaf longevity in plants. *Vegetatio* 121:89-100.

MASUMOTO, Toshiya 梶元敏也

- 1) Masumoto, T. (1989) Reproductive behavior in the spider, *Agelena limbata* ., 九州大学理学研究科修士論文
- 2) Masumoto, T. (1991) Males' visits to females' webs and Female mating receptivity in the spider, *Agelena limbata*., *J. of Ethol.*9: 1-7.
- 3) Masumoto, T. (1992) The composition of a colony of *Philoponella raffrayi*(Uloboridae) in Peninsular Malaysia., *Acta Arachnol.*41: 1-4.
- 4) Masumoto, T. (1993) The effect of the copulatory plug in the funnel-webspider, *Agelena limbata* (Araneae; Agelenidae)., *J. Arachnol* 21: 55-59.
- 5) Masumoto, T. (1993) Male mating strategy and the mating system in the spider, *Agelena limbata*., 九州大学理学研究科博士論文
- 6) Masumoto, T., Nomakuchi, S. and Sawada, K. (1993) Host plant conspicuousness and the distribution of eggs and larva in the butterfly, *Anthocharis scolymus*(Lepidoptera: Pieridae)., *Res. Popul. Ecol.* 35: 241-250.
- 7) 梶元敏也・鈴木信彦・砂原俊彦 (1994) 「動物と植物の相互作用－Herbivory の時空的異質性－」企画にあたって. *フェノロジー研究* 23:9
- 8) Masumoto, T. (1994) Male emergence timing and the mating success in the funnel-web spider, *Agelena limbata*(Araneae: Agelenidae)., *Ecol. Res.*9:159-165.
- 9) Masumoto, T. and Okuma, C. (1995) Specific web building on Eucalyptus trees in *Herennia ornatissima*(Araneae: Tetragnathidae)., *Acta Arachnol.*44: (in press)

NAKANISHI, Masami 中西正己

- 56) Miyajima, T., Nakanishi, M., Nakano, S. and Tezuka, Y. (1994) An autumnal bloom of the diatom *Melosira granulata* in a shallow eutrophic lake: physical and chemical constraints on its population dynamics. *Arch. Hydrobiol.* 130:143-162.
- 57) Rai, A. K., Shrestha, B. C., Joshi, P. L., Gurung, T. B. and Nakanishi, M. (1995) Bathymetric maps of Lakes Phewa, Begnas and Rupa in Pokhara Valley, Nepal. *Mem. Fac. Sci., Kyoto Univ. (Ser. Biol.)* 16:49-54.
- 58) Tsuda, R. and Nakanishi, M. (1995) Spectral irradiance and optical properties in physical processes in a large lake : Lake Biwa, Japan. *Coastal and Estuarine Studies* 48:65-76.
- 59) Urabe, J., Nakanishi, M. and Kawabata, K. (1995) Contribution of metazoan plankton to the cycling of nitrogen and phosphorus in Lake Biwa. *Limnol. Oceanogr.* 40:232-241.
- 60) Miyajima, T., Nakano, S. and Nakanishi, M. (1995) Planktonic diatoms in pelagic silicate cycle in Lake Biwa. *Jpn. J. Limnol.* 56:211-220.

NAKASHIZUKA, Tohru 中静透

- 1) Nakashizuka, T. & Numata, M. (1982) Regeneration process of climax beech forests I. Structure of a beech forest with the undergrowth of Sasa. *Japanese Journal of Ecology* 32: 57-67.
- 2) Nakashizuka, T. & Numata, M. (1982) Regeneration process of climax beech forests II. Structure of a forest under the influences of grazing. *Japanese Journal of Ecology* 32: 473-482.
- 3) Nakashizuka, T. (1983) Regeneration process of climax beech (*Fagus crenata* Blume) forests III. Structure and development process of sapling populations in different aged gaps. *Japanese Journal of Ecology* 33:409-418.
- 4) Nakashizuka, T. (1984) Regeneration process of climax beech (*Fagus crenata* Blume) forests IV. Gap formation. *Japanese Journal of Ecology* 34:75-85.

- 5) Nakashizuka, T. (1984) Regeneration process of climax beech (*Fagus crenata* Blume) forests V. Population dynamics of beech in a regeneration process. Japanese Journal of Ecology 34: 411-419.
- 6) 中静透 (1984) ブナ林の更新. 遺伝 38: 62-66.
- 7) Nakashizuka, T. (1985) Diffused light conditions in canopy gaps in a beech (*Fagus crenata* Blume) forest. Oecologia 66: 472-474.
- 8) 中静透・沼田真 (1985) 循環遷移. 現代生物学体系、第12巻、生態B、中山書店 p. 163-166.
- 9) Nakashizuka, T. (1987) Regeneration dynamics of beech forests in Japan. Vegetatio 69: 169-175.
- 10) 中静透・山本進一 (1987) 自然攪乱と森林群集の安定性. 日本生態学会誌 37:19-30.
- 11) Nakashizuka, T. (1988) Regeneration of Beech (*Fagus crenata*) after the simultaneous death of undergrowing dwarf bamboo (*Sasa kurilensis*). Ecological Research 3: 21-35.
- 12) Nakashizuka, T. (1989) Role of uprooting in composition and dynamics of an old-growth forest in Japan. Ecology 70:1273-1278.
- 13) Mori, T., Nakashizuka, T., Sumizono, T. & Yap, S. K. (1990) Growth and photosynthetic responses to temperature in several Malaysian tree species. Journal of Tropical Forest Science 3: 44-57.
- 14) Nakashizuka, T. (1991) Population dynamics of coniferous and broad-leaved trees in a Japanese temperate mixed forest. Journal of Vegetation Science 2: 413-418.
- 15) Nakashizuka, T. (1991) Gap formation and species diversity. Proceedings of 3rd Beech Symposium, IUFRO, Zvolen p.169-181.
- 16) Nakashizuka, T., Yusop, Z. & Nik, A. R. (1991) Altitudinal zonation of forest communities in Selangor, Peninsular Malaysia. Journal of Tropical Forest Science 4: 233-244.
- 17) 中静透 (1991) 森林動態の大面積長期継続研究について, 日本生態学会誌 41: 45-53.
- 18) Peters, R., Nakashizuka, T. & Ohkubo, T. (1992) Regeneration and development in beech-dwarf bamboo forest in Japan. Forest Ecology and Management 55: 35-50.
- 19) Masaki, T., Suzuki, W., Niiyama, K., Iida, S., Tanaka H. & Nakashizuka, T. (1992) Community structure of a species-rich temperate forest, Ogawa Forest Reserve, central Japan. Vegetatio 98: 97-111.
- 20) Nakashizuka, T., Iida, S., Tanaka, H., Shibata, M., Masaki, T. & Niiyama, K. (1992) Community dynamics of Ogawa Forest Reserve, a species rich deciduous forest, central Japan. Vegetatio 103: 105-112.
- 21) 中静透 (1992) 熱帯林のいろいろ. 「沈黙する熱帯林」、小林繁男編、東洋書店 p. 44-67.
- 22) 安原加津枝・中静透・長江恭博・熊谷洋一 (1993) 保護林制度にみる森林の保護管理の変遷. 造園雑誌 56: 187-192.
- 23) Nakashizuka, T., Iida, S., Suzuki, W. & Tanimoto, T. (1993) Seed dispersal and vegetation development on a debris avalanche on the Ontake volcano, Central Japan. Journal of Vegetation Science 4: 537-542.
- 24) 中静透 (1994) 森林群集はどこまで解明されたか - 樹木個体群の解析から. 森林科学 10: 14-18.
- 25) Masaki, T., Kominami, Y. & Nakashizuka, T. (1994) Spatial and seasonal patterns of seed dissemination of *Cornus controversa* in a temperate forest. Ecology 75: 1903-1910.
- 26) Nakashizuka, T., Yasuhara, K. & Iida, S. (1994) Forest fragmentation and plant species diversity in temperate deciduous forest. M. Yasuno & M. M. Watanabe (eds.), Biodiversity, its complexity and role. Global Environmental Forum, Tokyo pp. 149-158.
- 27) Nakashizuka, T. (1994) Disturbance regimes of temperate deciduous forests in Japan. Proceedings of NAFRO Seminar on Sustainable Forestry and Its Biological Environment p.103-107.
- 28) Nakashizuka, T., Katsuki, T. & Tanaka, H. (1995) Forest canopy structure analysed by using aerial photographs. Ecological Research 10: 13-18.
- 29) Shibata, M. & Nakashizuka, T. (1995) Seed and seedling demography of four co-occurring *Carpinus* species in a temperate deciduous forest. Ecology 76: 1099-1108.
- 30) Iida S. & Nakashizuka, T. (1995) Forest fragmentation and its effect on species diversity in sub-urban coppice forests in Japan. Forest Ecology and Management 73: 197-210.

- 31) Peters, R., Tanaka, H., Shibata, M. & Nakashizuka, T. (1995) Light climate and growth in shade-tolerant *Fagus crenata*, *Acer monoand* and *Carpinus cordata*. *Ecoscience* 2: 67-74.
- 32) 中静透 (1995) 空中写真によるギャップの判読と計測 . - なぜギャップを読むのか、どう測るのか - 森林航測 17: 6-13.
- 33) Nakashizuka, T. & Kohyama, T. (1995) The significance of the asymmetric effect of crowding for coexistence in a mixed temperate forest. *Journal of Vegetation Science* 6: 509-516.
- 34) 中静透 (1995) 森林群集と自然攪乱 . 沼田真編「現代生態学とその周辺」東海大学出版会 96-104.
- 35) Abe, S., Masaki, T. & Nakashizuka, T. (1995) Factors influencing sapling composition in canopy gaps of a temperate deciduous forest. *Vegetatio* 120: 21-32.
- 36) 中静透 (1995) マスティングが示唆する樹木個体群の現状と問題点 . 個体群生態学会会報 52: 63-66.
- 37) Nakashizuka, T., Iida, S., Masaki, T., Shibata, M. & Tanaka, H. (1995) Evaluating increased fitness through dispersal: a comparative study on tree populations in a temperate forest, Japan. *Ecoscience* 2: 245-251.
- 38) Kobayashi, S., Takahashi, M., Nakashizuka, T., Sukusawang, S., Yarwudhi, C. & Kutintara, U. (1995) An Introduction to research site at Mae Klong Watershed Research Station, in Thong Pha Phum, Kanchanaburi, Thailand. Proceedings of the International Workshop on "The Changes of Tropical Forest Ecosystems by El Nino and Others", STA Japan, NRC Thailand & JISTEC 20-32.
- 39) Yarwudhi, C., Kobayashi, S., Nakashizuka, T. & Takahashi, M. (1995) Tree population dynamics in a tropical seasonal forest. Proceedings of the International Workshop on "The Changes of Tropical Forest Ecosystems by El Nino and Others", STA Japan, NRC Thailand & JISTEC 97-108.
- 40) Nakashizuka, T., Kutintara, U., Marod, D. & Eiadong, W. (1995) Seedling dynamics in a tropical seasonal forest. Proceedings of the International Workshop on "The Changes of Tropical Forest Ecosystems by El Nino and Others", STA Japan, NRC Thailand & JISTEC 109-115.
- 41) Kutintara, U., Marod, D., Takahashi, M. & Nakashizuka, T. (1995) Growth and dynamics of bamboos in a tropical seasonal forest. Proceedings of the International Workshop on "The Changes of Tropical Forest Ecosystems by El Nino and Others", STA Japan, NRC Thailand & JISTEC 125-139.
- 42) Marod, D., Kutintara, U. & Nakashizuka, T. (1995) Successional pattern after shifting cultivation in the mixed deciduous forest of Mae Klong Watershed Research Station. Proceedings of the International Workshop on "The Changes of Tropical Forest Ecosystems by El Nino and Others", STA Japan, NRC Thailand & JISTEC 307-308.
- 43) Eiadong, W., Kutintara, U. & Nakashizuka, T. (1995) Dynamics of undergrowth in the mixed deciduous forest of Mae Klong Watershed Research Station, Thong Pha Phum, Kanchanaburi. Proceedings of the International Workshop on "The Changes of Tropical Forest Ecosystems by El Nino and Others", STA Japan, NRC Thailand & JISTEC 307-313.

SHIMIZU, Isamu 清水勇

- 92) 清水勇 (1995) カイコの羽化リズムモデル. 日本時間生物学会誌 1:p111.
- 93) 坂本克彦、浅井理人、清水勇 (1995) カロチノイド欠乏カイコのふ化リズムとふ化時期決定機構. 日本時間生物学会誌 1:p112.
- 94) Shimizu I.; Ueda M.; Sakamoto K.; Hisatomi O.; Tokunaga F. (1995) Comparison of DNA sequence of exon-4 or exon-5 in visual pigment gene between amphidromous and landlocked Ayu-fish, *Plecoglossus altivelis*. *Proc. Japan Academy* 71:84-86.
- 95) Ichikawa T.; Hasegawa K.; Shimizu I.; Kataoka H.; Suzuki A. (1995) Structure of neurosecretory cells with immunoreactive diapause hormone and pheromone biosynthesis activating neuropeptide in the silkworm, *Bombyx mori*. *Zool. Science* 12: 703-712.
- 96) Shimizu I.; Ichikawa T. (1995) Regulation mechanism of diapause hormone secretion in the silkworm, *Bombyx mori*. *Zool. Science* 12: 17.

- 97) 清水勇 (1995) ダイレクトシ - クエンスによる DNA の塩基配列の決定法 京都大学生態学研究センター - ニュ - ス No.33: 1-2.

SUGIMOTO, Atsuko 杉本敦子

- 14) Sugimoto, A. & Wada, E. (1995) Hydrogen isotopic composition of bacterial methane: acetate fermentation and CO₂/H₂ reduction. *Geochim. Cosmochim. Acta* 59: 1329-1337. [methane, hydrogen isotopic composition, acetate, hydrogen, water]
- 15) Sugimoto, A., Inoue, T., Tayasu, I., Wada, E. & Abe, T. (1995) Methane emission from different castes of termites in Narathiwat, Thailand. *Tropics* 4: 253-257. [methane, termite, caste]
- 16) Sugimoto, A., Yoshida, N., Wada, E. & Abe, T. (1995) Effects of land use on methane emission from tropical swamp ecosystems in southern Thailand. In: *Research related to the UNESCO's Man and the Biosphere Programme in Japan. 1994-1995*: pp15-20. [termite, swamp, rice paddy, methane]
- 17) Sugimoto, A., Vijarnsorn, P., Boonprakub, S., Yoshida, N. & Wada, E. (1995) Stable isotopic composition and flux of methane depend on the decomposition pathways of organic matter. --Incubation experiments and field observations at Narathiwat, Thailand-- In: *A tropical swamp forest ecosystem and its greenhouse gas emission. Reports of a New Program for Creative Basic Research Studies of Global Environmental Change with reference to Asia and Pasific Regions. Vol. II-1.* (ed. by Vijarnsorn, P., Suzuki, K., Kyuma, K., Wada, E., Nagano, T. and Takai, Y.). pp121-125. [methane, carbon isotopic composition, swamp, peat]
- 18) Wada, E., Vijarnsorn, P., Yoshida, N., Yoshioka, T., Sugimoto, A., Ueda, S., Katase, T., Boonprakub, S., Miyajima, T., Kimura, M. & Jedrysek, M. O. (1995) Radiatively active gases in tropical swamp forest and wetland soils I: An overview. In: *A tropical swamp forest ecosystem and its greenhouse gas emission. Reports of a New Program for Creative Basic Research Studies of Global Environmental Change with reference to Asia and Pasific Regions. Vol. II-1.* (ed. by Vijarnsorn, P., Suzuki, K., Kyuma, K., Wada, E., Nagano, T. and Takai, Y.). pp79-88. [methane, soil, tropical swamp forest]
- 19) Yoshida, N., Vijarnsorn, P., Ueda, S., Sugimoto, A., Yoshioka, T. & Wada, E. (1995) Radiatively active gases in tropical swamp forest and wetland soils II: Dynamics and framework with emphasis on swamp forest in Narathiwat, Thailand. In: *A tropical swamp forest ecosystem and its greenhouse gas emission. Reports of a New Program for Creative Basic Research Studies of Global Environmental Change with reference to Asia and Pasific Regions. Vol. II-1.* (ed. by Vijarnsorn, P., Suzuki, K., Kyuma, K., Wada, E., Nagano, T. and Takai, Y.). pp89-98. [methane, nitrous oxide, swamp forest]
- 20) Vijarnsorn, P., Boonprakub, S., Ueda, S., Yoshioka, T., Miyajima, T., Sugimoto, A., Yoshida, N. & Wada, E. (1995) Radiatively active gases in Tropical swamp forest and wetland soils III. Seasonal variation in Narathiwat, Thailand in 1993 and 1994. In: *A tropical swamp forest ecosystem and its greenhouse gas emission. Reports of a New Program for Creative Basic Research Studies of Global Environmental Change with reference to Asia and Pasific Regions. Vol. II-1.* (ed. by Vijarnsorn, P., Suzuki, K., Kyuma, K., Wada, E., Nagano, T. and Takai, Y.). pp99-108. [methane flux, swamp forest, secondary forest, water level]
- 21) Ueda, S., Yoshioka, T., Yoshida, N., Sugimoto, A., Miyajima, T., Wada, E., Vijarnsorn, P. & Boonprakub, S. (1995) Distribution of dissolved carbon dioxide, methane and nitrous oxide in a tropical swamp ecosystem in southern Thailand. In: *A tropical swamp forest ecosystem and its greenhouse gas emission. Reports of a New Program for Creative Basic Research Studies of Global Environmental Change with reference to Asia and Pasific Regions. Vol. II-1.* (ed. by Vijarnsorn, P., Suzuki, K., Kyuma, K., Wada, E., Nagano, T. and Takai, Y.). pp109-116. [dissolved methane, dissolved nitrous oxide, swamp forest]
- 22) Miyajima, T., Sugimoto, A., Hanba, T. Y. & Wada, E. (1995) Methane production from peat of tropical swamp forest in Narathiwat, Thailand. In: *Research related to the UNESCO's Man and the Biosphere Programme in Japan. 1994-1995*: pp25-33. [methane, peat, acetate]

TABATA, Hideo 田端英雄

- 99) 田端英雄 (共著) (1995) 日本の自然 5 近畿 . (大場秀章・藤田和夫・鎮西清高編) 183pp. 岩波書店、東京 .
- 100) 田端英雄 (1995) 「池残って自然滅ぶ」京都新聞「水曜フォーラム」1995.6.14.
- 101) 田端英雄 (1995) 「永谷池はのこったが自然は死んだ - オオタカが去りイヌセンブリとヌマカゼクサが絶滅した物語」古都 sanzan, 38号 .

URABE, Jotaro 占部城太郎

- 1) Urabe, J. and Maruyama, T. (1986) Prey selectivity of two cyprinid fishes in Ogochi Reservoir. Bull. Jpn. Soc. Sci. Fish. 52: 2045-2054.
- 2) Urabe, J. and Murano, M. (1986) Seasonal and horizontal variations in the zooplankton community of Ogochi Reservoir, Tokyo. Bull. Plankton Soc. Jpn. 33: 101-112.
- 3) 渡辺泰徳・楠岡泰・占部城太郎・清沢弘志・福井学 (1986) 小笠原の淡水環境と水中微生物 . 小笠原年報 10: 41-62.
- 4) Urabe, J. (1988) Effect of food conditions on the net production of *Daphnia galeata* : separate assessment of growth and reproduction. Bull. Plankton Soc. Jpn. 35: 159-174.
- 5) Urabe, J. (1989) Relative importance of temporal and spatial heterogeneity in the zooplankton community of an artificial reservoir. Hydrobiologia 184: 1-6.
- 6) Urabe, J. and Watanabe, Y. (1990a) Influence of food density on respiration rate of two crustacean plankters, *Daphnia galeata* and *Bosmina longirostris*. Oecologia 82: 362-368.
- 7) Urabe, J. and Watanabe, Y. (1990b) Difference in the bacterial utilization ability of four cladoceran plankton (crustacea: cladocera). Nat. Hist. Res. 1: 85-92.
- 8) 占部城太郎・赤井裕・谷城勝弘 (1990) 印旛沼・手賀沼における遊泳生物相の変遷 . 千葉生物誌 40: 12-20.
- 9) Urabe, J. (1990) Stable horizontal variation in the zooplankton community structure of a reservoir maintained by predation and competition. Limnol. Oceanogr. 35: 1703-1717.
- 10) 占部城太郎 (1991) 「ミジンコ物語」千葉県立中央博物館生態園トピックス展解説書 . 10pp. 千葉県立中央博物館
- 11) 占部城太郎 (1991) 琵琶湖の動物プランクトン「コメント」 . 琵琶湖の生物-現状と変遷: 49-51. 滋賀県琵琶湖研究所
- 12) Urabe, J. (1991) Effect of food concentration on growth, reproduction and survivorship of *Bosmina longirostris* (cladocera): an experimental study. Freshwater Biol. 25: 1-8.
- 13) Urabe, J. and Watanabe, Y. (1991a) Effect of food conditions on the bacterial feeding of *Daphnia galeata*. Hydrobiologia 225: 121-128.
- 14) Urabe, J. and Watanabe, Y. (1991b) Effect of food concentration on the assimilation and production efficiencies of *Daphnia galeata* G. O. Sars (crustacea: cladocera). Functional Ecol. 5: 635-641.
- 15) Urabe, J. (1991) Effect of food concentration on the carbon balance of *Bosmina longirostris* (crustacea: cladocera). Freshwater Biol. 26: 57-68.
- 16) 占部城太郎 (1991) 霞ヶ浦の動物プランクトン生産量はそれほど高いのか . 陸水雑 52: 283-287.
- 17) 占部城太郎 (1992) 湖沼の生物群集と生元素比 . 京都大学生態学研究センター・ニュース No. 8: 15-17.
- 18) 占部城太郎 (1992) 霞ヶ浦のミジンコは2度死ぬ? 陸水雑 53: 249-251.
- 19) Urabe, J. and Watanabe, Y. (1992) Possibility of N- or P-limitation for planktonic cladocerans: an experimental test. Limnol. Oceanogr. 37: 244-251.
- 20) Urabe, J. (1992) Midsummer succession of rotifer plankton in a shallow eutrophic pond. J. plankton Res. 14: 851-866.
- 21) Urabe, J. (1993a) Seston stoichiometry and nutrient deficiency in a shallow eutrophic pond. Arch. Hydrobiol. 126: 417-428
- 22) Urabe, J. (1993b) N and P cycling coupled by grazers' activities: food quality and nutrient release by zooplankton. Ecology 74: 2337-2350.

- 23) Urabe, J. (1993c) Implication of sestonic elemental ratio in zooplankton ecology: reply to the comment by Brett. *Limnol. Oceanogr* 38: 1337-1340.
- 24) 占部城太郎 (1993) 湖沼の栄養バランスとプランクトンの生産特性 . 用水と廃水 35: 37-44
- 25) Urabe, J. (1994) Effect of a zooplankton community on seston elimination in a restored pond in Japan. *Restoration Ecology* 2: 61-70.
- 26) 占部城太郎・倉西良一・長谷川雅美・小林紀雄・小倉紀男・谷城勝弘 (1994) 舟田池における水質と動物相の変化 . 千葉中央博自然誌研究報告 特別号 1 :333-343.
- 27) Kumagai, M., Nakano, S., Imberger, J., Hirayama, A., Kake, A., Itakura, Y., Endoh, S., Okumura, Y., Tsuda, R., Tanaka, Y., Kimoto, T., Hashitani, H., Seike, Y., Okumura, M., Fujinaga, K., Sato, T., Nakanishi, M., Sekino, T., Nagata, T., Frenette, J., Vincent, W., Legendre, L., Urabe, J. & Kawabata, K. (1995) Some results of Biwako Transport Experiment (BITEX '93)--Biogeochemical changes due to the horizontal transport between the North and the South Basins of Lake Biwa. *Jpn. J. Limnol.* 151-156.
- 28) Urabe, J., Nakanishi, M. & Kawabata, K. (1995) Contribution of metazoan plankton to the cycling of N and P in Lake Biwa. *Limnol. Oceanogr.* 40: 232-241.
- 29) Urabe, J. (1995) Direct and indirect effects of zooplankton on seston stoichiometry. *Ecoscience* 2: 286-296.
- 30) Kawabata, K. and Urabe, J. (1995) Spatial and temporal changes in zooplankton biomass. In *Biwako Transport Experiment Baseline Data Overviews*. Lake Biwa Reserach Insititute, Shiga Prefecture, Japan.

WADA, Eitaro 和田英太郎

- 172) Wada, E., Yoshii, K., Kawai, T., Ueda, S., Ueda, T., O. A. Timoshkin, N. G. Melnik, L. A. Gorbunova and N. E. Guselnikova (1995) Hydrobiogeochemistry of Lake Baikal: Its scope and preliminary survey. *Publ. Itako Hydrobiol. Stn.* 8: 7-26.
- 173) Sugimoto, A., Inoue, T., Tayasu, I., Wada, E. and Abe, T. (1995) Methane Emissions from Different Castes of Termites in Narathiwat, Thailand, *Tropics* Vol. 4: 253-257.
- 174) Sugimoto, A. and Wada, E. (1995) Hydrogen isotopic composition of bacterial methane: CO₂/H₂ reduction and acetate fermentation. *Geochimica et Cosmochimica Acta* Vol. 59, No. 7: 1329-1337.
- 175) Miyajima, T., Yamada, Y., Hanba, T. Y., Yoshii, K., Koitabashi, T. and Wada, E. (1995) Determining the stable isotope ratio of total dissolved inorganic carbon in lake water by GC/C/IRMS. *Limnol. Oceanogr.* 40(5): 994-1000.
- 176) Wada, E. and Yoshioka, T. (1995) Isotope Biogeochemistry of Several Aquatic Ecosystems. *Geochemistry International* 32(9) : 121-141.
- 177) Wada, E., P. Vijarnsorn, Yoshida, N., Yoshioka, T., Sugimoto A., Ueda, S., Katase, T. , S. Boonprakub, Miyajima, T., Kimura, M. and M. O. Jedrysek (1995) Radiatively Active Gases in Tropical Swamp Forest and Wetland Soils I : An Overview. In "A tropical swamp forest ecosystem and its greenhouse gas emission", Reports of a new program for creative basic research, Studies of global environmental change with special reference to Asia and Pacific regions. Vol. II-1. Nodai Research Institute , Tokyo University of Agriculture 79-88.
- 178) Yoshida, N., P. Vijarnsorn, Ueda, S., Sugimoto, A., Yoshioka, T. and Wada, E. (1995) Radiatively Active Gases in Tropical Swamp Forest and Wetland Soils II : Dynamics and Framework with Emphasis on Swamp Forest in Narathiwat, Thailand. ditto, 89-97.
- 179) P.Vijarnsorn, S. Boonprakub, Ueda, S., Yoshioka, T., Miyajima, T., Sugimoto, A., Yoshida, N. and Wada, E. (1995) Radiatively Active Gases in Tropical Swamp Forest and Wetland Soils III : Seasonal Variation in Narathiwat, Thailand in 1993 and 1994. ditto, 99-107.
- 180) Ueda, S., Yoshioka, T., Yoshida, N. Sugimoto, A., Miyajima, T. Wada, E., P. Vijarnsorn and S. Boonprakub (1995) Distribution of Dissolved Carbon Dioxide, Methane and Nitrous Oxide in a Tropical Swamp Ecosystem in Southern Thailand. ditto, 109-116.
- 181) Sugimoto, A., P. Vijarnsorn, S. Boonprakub, Yoshida, N. and Wada, E. (1995) Stable Isotopic Compositions and Flux of Methane Depend on the Decomposition Pathways of

- Organic Matter - Incubation Experiments and Field Observations at Narathiwat, Thailand
- .ditto, 121-125.
- 182) Miyajima, T. and Wada E. (1995) Methane Production from Tropical Peat under Experimental Conditions. ditto, 127-130.
 - 183) P. Kanatharana, V. Pongthumrong, N. Boontanon, Ueda, S. and Wada, E. (1995) Distribution of Nitrous Oxide (N₂O) in the Peat Swamp and Its Surrounding Areas. ditto, 147-151.
 - 184) M. O. Jedrysek, Wada, E. and P. Vijarnsorn (1995) Carbon and Organic Sulphur Isotope Ratios and Organic Sulphur Concentration in Core Profiles of Peat from Thailand. ditto, 153-156.
 - 185) M. O. Jedrysek, S. Boonprakub, Wada, E. and P. Vijarnsorn (1995) Short Communication: Carbon Isotopic Composition of Bubble Methane - Diurnal Variation in Artificial Ponds and a Canal and Vertical Variations in To Daeng forest - . ditto, 157-158.
 - 186) Wada, E., Ando, T. and Kumazawa, K. (1995) Biodiversity of Stable Isotope Ratios. In "Stable Isotopes in the Biosphere". Wada, E., Yoneyama, T., Minagawa, M., Ando, T. and B. D. Fry (Eds.), Kyoto University Press. 7-14.
 - 187) 山田佳裕・和田英太郎 (1995) GC/C/IRMS による地球化学試料の同位体分析、ぶんせき、日本分析科学会 43-47.
 - 188) 半場祐子・和田英太郎 (1995) 植物の炭素同位体比を支配する要因について。月刊海洋 Vol.27、No.9、512-516.
 - 189) 和田英太郎 (1995) 微生物のガス代謝と地球環境 - 微生物の生態 20. 松本 聰編. 学会出版センター. pp.1-21.
 - 190) M. O. Jedrysek, G. Skrzypek, E. Wada, B. Doroszko, T. Kral, A. Pazdur, P. Vijarnsorn and Y. Takai (1995) Analiza $\delta^{13}\text{C}$ i $\delta^{34}\text{S}$ w profilach torfowych a zmiany globalne. Przegląd Geologiczny vol. 43, nr 12, 1004-1010.
 - 191) T. Nakatsuka, K. Watanabe, N. Handa, E. Matsumoto and E. Wada (1995) Glacial to interglacial surface nutrient variations of Bering deep basins recorded by $\delta^{13}\text{C}$ and $\delta^{15}\text{N}$ of sedimentary organic matter. Paleoceanography Vol. 10, No. 6, 1047-1061.

YAMAMURA, Norio 山村則男

- 1) 森主一・今福宏司・山村則男訳 (1972) 将来の生態学説。ラモン・マーガレフ著。築地書館。
- 2) 山村則男 (1974) カタストロフ理論の数理生態学での展開。数理科学 No. 138: 45-52.
- 3) 山村則男 (1975) 生態系の構造とカタストロフ。数理科学 No. 147: 21-27.
- 4) Yamamura, N. (1976) Extension of Kolmogorov-type predation equation to the three species interactions. Memoirs of the Faculty of Science, Kyoto University, Series B 7(1): 111-117.
- 5) Yamamura, N. (1976) Catastrophes of ecosystems. Memoirs of the Faculty of Science, Kyoto University, Series B 7(1): 119-124.
- 6) Yamamura, N. (1976) A mathematical approach to spatial distribution and temporal succession in plant communities. Bulletin of Mathematical Biology 38: 517-526.
- 7) Teramoto, E., Ashida, H., Nakajima, H., Shigesada, N., Kawasaki, K., and Yamamura, N. (1976) Structure, stability and efficiency of ecosystem. Progress in Theoretical Biology 4: 205-262.
- 8) Yamamura, N., Nakano, T., and Teramoto, E. (1978) Catastrophic phenomena in ecological systems. Proceedings of the International Symposium on Mathematical Topics in Biology 16-23.
- 9) Teramoto, E., Ashida, H., Nakajima, H., Shigesada, N., Kawasaki, K., and Yamamura, N. (1978) Switching effect in prey-predator system. Journal of Theoretical Biology 70: 263-271.
- 10) Teramoto, E., Ashida, H., Nakajima, H., Shigesada, N., Kawasaki, K., and Yamamura, N. (1978) Stability of multispecies prey-predator system. Memoirs of the Faculty of Science, Kyoto University, Series B 7(2): 87-94.
- 11) Tsubaki, Y., and Yamamura, N. (1980) A model descriptive of gregariousness of colonial insect larvae. Researches on Population Ecology 21: 332-344.

- 12) Iwasa, Y., Higashi, M., and Yamamura, N. (1981) Prey distribution as a factor determining the choice of optimal foraging strategy. *The American Naturalist* 117: 710-723.
- 13) Mogi, M. and Yamamura, N. (1981) Estimation of the attraction range of a human bait for *Aedes albopictus*(Diptera, Culicidae) adults and its absolute density by a new removal method applicable to populations with immigrants. *Researches on Population Ecology* 23: 328-343.
- 14) Yamamura, N. and Iwahashi, O. (1982). Stabilization of the population of a parasite on fruits by the population of a cleptoparasite. *Researches on Population Ecology* 24: 345-359.
- 15) 山村則男 (1983) 進化生態学における最適原理 . *生物物理* 23: 178-182.
- 16) Yamamura, N. (1984) Relation between the degree of generation overlapping and population stability. *Acta Eruditorum of Saga Medical School* 2: 31-45.
- 17) Nakanishi, M., and Yamamura, N. (1984) Seasonal changes in the primary production and chlorophyll a amount of sessile algal community in a small mountain stream, Chigonosawa. *Memoirs of the Faculty of Science, Kyoto University, Series B* 9: 41-55.
- 18) Yamamura, N. and Tsuji, N. (1985) An ESS model for optimal copulation time. *Acta Eruditorum of Saga Medical School* 3: 37-53.
- 19) Yamamura, N. (1986) An evolutionarily stable strategy (ESS) model of postcopulatory guarding in insect. *Theoretical Population Biology* 29: 438-455.
- 20) Platt, T. and Yamamura, N. (1986) Prenatal mortality in a marine cladoceran *Evadne nordmanni*. *Marine Ecology Progress Series* 29: 127-139.
- 21) Tsuji, N. and Yamamura, N. (1986) An ESS model of postcopulatory guarding: A case of multi-copulation during oviposition. *Acta Eruditorum of Saga Medical School* 4: 45-61.
- 22) 山村則男 (1986) 繁殖戦略の数理モデル . 東海大学出版会
- 23) 山村則男 (1986) オスはメスを護るべきか . *数理科学* No. 280: 5-10.
- 24) Yamamura, N. (1987) Evolutionary stable strategy (ESS) models of copulation and mate guarding in Animal Societies, Theories and Facts (eds. Ito, Y., Brown, J.L., and Kikkawa, J.) 197-211. Japan Scientific Societies Press, Tokyo.
- 25) Yamamura, N. (1987) A model on correlation between precopulatory guarding and short receptivity to copulation. *Journal of Theoretical Biology* 127: 171-180.
- 26) Yamamura, N. (1987) Biparental defence in a subsocial spider mite. *Trends in Ecology & Evolution* 2: 261-262.
- 27) 山村則男 (1987) オスのメス獲得競争 : 数理モデルによるアプローチ . *生物物理* 27: 281-286.
- 28) Yamamura, N. and Tsuji, N. (1987) Optimal patch time under exploitative competition. *The American Naturalist* 129: 553-567.
- 29) 松田博嗣・山村則男 (1987) 進化的に安定な場 . *数理科学* No. 292: 58-63.
- 30) Yamamura, N. (1988) Not all models are on the same level: Empirical law and hypothesis Invited commentary to "Research on self-control: An integrating framework" by Logue A.W. in *Behavioral and Brain Science*. 11: 665-709.
- 31) Mogi, M. and Yamamura, N. (1988) Population regulation of the mosquito *Armigeres theobaldi* with description of the animal fauna in zingiberaceous inflorescences. *Researches on Population Ecology* 30: 251-265.
- 32) Yamamura, N. and Yano, E. (1988) A simple model of host-parasitoid interaction with host-feeding. *Researches on Population Ecology* 30: 353-361.
- 33) Yamamura, N. and Tsuji, N. (1989) Postcopulatory guarding strategy in finite mating period. *Theoretical Population Biology* 35:36-50.
- 34) Yamamura, N., Hasegawa, T. and Ito, Y. (1990) Why mothers do not resist infanticide? A cost-benefit genetic model. *Evolution* 44: 1346-1357.
- 35) Tsuji, N., Okazawa, T. and Yamamura, N. (1990) Autogenous and Anautogenous Mosquitoes: A Mathematical Analysis of Reproductive Strategies. *Journal of Medical Entomology* 27: 446-453.
- 36) 山村則男 (1990) 子殺しのパラドックス . *数理科学* No. 326: 53-58. (1993, 10月、別冊・数理科学「方程式と自然」162-167に転載)
- 37) 山村則男 (1990) オスがメスを選ぶ? 生物物理の最前線 . 日本生物物理学会編 287-291.

- 38) 梶原華千代・大久保薫・山村則男 (1991) 子宮がん術後患者の自律排尿確立の方法と工夫．看護技術 37: 367-372.
- 39) Higashi, M., Yamamura, N., Abe, T. and Burns, T. (1991) Why don't all termite species have a sterile worker caste?. Proc. R. Soc. Lond. B. 246: 25-29.
- 40) 山村則男 (1991) ESS 理論とその手法：子育てを例に．週刊朝日百科・動物たちの地球 1(5): 166-167.
- 41) 山村則男 (1991) 儀式化された闘争．週刊朝日百科・動物たちの地球 1(9): 279.
- 42) 山村則男・辻宣行 (1991) 子育ては母か父か：進化ゲーム理論による解析．遺伝 45(10): 74-79.
- 43) 山村則男 (1991) 蝦と蟹の交尾前ガード：ペアになるべきか、もっとすてきな雌を探すべきか．数理科学 No. 340: 70-73.
- 44) Yamamura, N. and Higashi, M. (1992) An Evolutionary theory of conflict resolution between relatives: Altruism, manipulation, compromise. Evolution 46: 1236-1239.
- 45) Tsuji, N. and Yamamura, N. (1992) A Simple Evolutionary Model of Dormancy and Dispersal in Heterogeneous patches with Special Reference to Phytophagous Lady Beetles: I. Stable Environments. Researches on Population Ecology 34: 77-89.
- 46) 伊藤嘉昭・山村則男・嶋田正和 (1992) 動物生態学．蒼樹書房
- 47) Yamamura, N. and Tsuji, N. (1993) Parental Care as a Game. J. Evolutionary Biology 6: 103-127.
- 48) Higashi, M. and Yamamura, N. (1993) What determines the animal group size: insider-outsider conflict and its resolution. American Naturalist 142: 553-563.
- 49) Yamamura, N. (1993) Vertical Transmission and Evolution of Mutualism from Parasitism. Theoretical Population Biology 44: 95-109.
- 50) Yamamura, N. (1993) Different Evolutionary Conditions for Worker and Soldier Castes: Genetic Systems Explaining Caste Distribution among Eusocial Insects. Journal of Theoretical Biology 161: 111-117.
- 51) 山村則男 (1993) 動物と植物の相互関係の理論的考察：植物の防御戦略を中心に．”動物と植物の利用しあう関係”（鷲谷いずみ・大串隆之編）の中の第5章 平凡社 東京．
- 52) Higashi, M., Yamamura, N., Nakajima, H., and Abe, T. (1994) Producer-Decomposer Matching in a Simple Model Ecosystem; A Network Coevolutionary Approach to Ecosystem Organization". in Proceedings of a Joint U.S.-Japan Seminar in the Environmental Sciences (eds. DeAngelis D. L. and Teramoto J.). Technical Reports from Oakridge National Institute ESDP No. 4124:131-145.
- 53) Higashi, M. and Yamamura, N. (1994) Resolution of evolutionary conflict; a general theory and its application. Researches on Population Ecology 36: 15-22
- 54) Tsuji, N. and Yamamura, N. (1994) A Mathematical Model on Wing Dimorphism in Male Cardiocondyla Ants. J. Ethology 12: 19-24.
- 55) Hattori, A. and Yamamura, N. (1994) Coexistence of subadult males and females as alternative tactics of breeding post acquisition in a monogamous and protandrous anemonefish. Evolutionary Ecology 8: 1-12.
- 56) Jormalainen, V., Tuomi, J. and Yamamura, N. (1994) Intersexual Conflict over Precopula Duration in Mate-guarding Crustacea. Behavioral Processes 32: 265-584.
- 57) 山村則男 (1994) 生態学・進化生物学関連用語．岩波生物学辞典第4版
- 58) 山村則男 (1994) 社会性昆虫におけるワーカーとソルジャー．数理科学 No.367; 53-57.
- 59) 山村則男 (1994) 血縁者間の利害対立とその解消．数理科学 No.370; 59-62.
- 60) 山村則男 (1994) オスとメスの争いと妥協．数理科学 No.372; 65-69.
- 61) 山村則男 (1994) 動物の群れの大きさ．数理科学 No.377; 64-67.
- 62) Yamamura, N. and Tsuji, N. (1995) Optimal strategy of plant antiherbivore defense; Implication for apparency and resource availability theories. Ecological Research 10: 19-30.
- 63) 山村則男・早川洋一・藤島政博．(1995) 寄生から共生へ - 昨日の敵は今日の友．平凡社 (印刷中) ．
- 64) 山村則男 (1995) 寄生から共生へ：垂直感染と廃物利用．第9回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会編”地球共生系：多様な生物の共存する仕組み”の中の p.43-50. クバプロ．
- 65) 山村則男 (1995) 今日の敵は明日の友．数理科学 No.380: 63-67.
- 66) 山村則男 (1995) 魚の性転換：2つの戦術の共存．数理科学 No.383: 69-73.

- 60)遊磨正秀 (1994) 河川環境と生物 - 人為環境の中の自然 - . 環境技術 23(9):530-534.
- 61)柳沢康信・遊磨正秀・川那部浩哉 (1995) タンガニイカ湖の魚類を中心とする生物群集の多様性. 学術月報 48(4):383-389.
- 62)遊磨正秀編 (1995) 住民参加による水辺の遊び再発見. 318+194pp. 平成6年度(仮称)琵琶湖博物館開設準備室委託研究報告書.
- 63)川那部浩哉・遊磨正秀編 (1995) 生態学からみた安定社会 安定と攪乱 - 淡水域の生物群集から - . 208 pp. 第5回京都国際セミナー報告書.
- 64)角野康郎・遊磨正秀 (1995) ウェットランドの自然. 199 pp. 保育社.
- 65)遊磨正秀・嘉田由紀子・藤岡康弘 (1995) 水辺の生物相と遊びの時代変遷 - 3世代アンケート調査から - . 環境システム研究 23:20-31.
- 66)遊磨正秀 (1995) 生き物と人の水辺 ~ 虫を例に ~ . In: 生態系保全をめざした水辺と河川の開発と設計. (ed. by 船山富晴, 堀裕策). pp.132-144. 工業技術会 東京.
- 67)高谷好一・遊磨正秀・嘉田由紀子・田中敏博・荒井紀子・岡田玲子・井上誠・大西行雄・長沼庸司 (1995) 住民参加型手法によるホテル調査と水環境問題 - 琵琶湖周辺地域を対象に - . 第4期プロ・ナトゥーラ・ファンド助成成果報告書 53-58.
- 68)遊磨正秀・嘉田由紀子・藤岡康弘 (1995) 水辺の変遷と生物相の変化 ~ 「水辺の遊び」調査から. 国際景観生態学会日本支部会報 2(5):4-5.
- 69)遊磨正秀 (1995) 身近な水辺の生物群集 - 水田農耕とのかかわりにおいて - . 環境技術 24(12):695-700.

- 93) Yumoto, T., Maruhashi, T., Yamagiwa, J. and Mwanza, N. (1995) Why and how has African *Solanum* chosen elephants only as seed disperser? *Tropics* 4: 233-238
- 94) Inoue, T., Yumoto, T., Hamid, A. A., Lee, H.S. and Ogino, K. (1995) Construction of a canopy observation system in a tropical rainforest of Sarawak. *Selbyana* 16(1): 38-51.
- 95) Kato, M., Inoue, T., Hamid, A. A., Nagamitsu, T., Merdek, M. B., Nona, A. R., Itino, T., Yamane, Sk. and Yumoto, T. (1995) Seasonality and vertical structure of light-attracted insect communities in a dipterocarp forest in Sarawak. *Res. Polul. Ecol.* 37(1): 59-79.
- 96) Yumoto, T., Maruhashi, T., Yamagiwa, J. and Mwanza, N. (1995) Seed dispersal by elephants in a tropical rain forest in Kahuzi-Biega National Park, Zaire. *Biotropica* 27(4): 257-265.
- 97) 湯本貴和・井上民二 (1995) サラワク林冠生物学計画 混合フタバガキ林のフェノロジーと植物・動物相互作用の解明をめざして. *Tropics* 4(4): 307-315.
- 98) 湯本貴和 (1995) 植物の王国・熱帯雨林. NHK取材班編「生命 - 40億年はるかな旅 第5巻」pp. 40-45. NHK出版.
- 99) 湯本貴和 (1995) 暗い森の華やかな交歓. *植物の世界* 59: 146-148. 朝日新聞社.
- 100) 湯本貴和 (1995) 「屋久島---巨木の森と水の島の生態学」講談社ブルーバックス. 講談社. 201pp.+v
- 101) 湯本貴和 (1995) 温帯の季節・熱帯の時間. 本 20(6): 42-43. 講談社.
- 102) 湯本貴和、百瀬邦泰 (1995) 熱帯植物の多様性と送粉者. *昆虫と自然* 30(7):23-27. ニューサイエンス社.
- 103) 湯本貴和 (1995) 熱帯雨林の再生と新しい文明の創造. *大法輪* 62(11): 32-34. 大法輪閣.
- 104) 湯本貴和 (1995) 癒しの島・屋久島. *生命の島* 35: 1. 屋久島産業文化研究所.



B. Research Students and Fellows



大学院生・研修員

- 2) 半場祐子・和田英太郎 (1995) 植物の炭素安定同位体比を支配する要因について . 月刊海洋 vol.27 no.9 pp.512-516
- 3) Miyajima, T., Yamada, Y., Hanba, Y., Yoshii, K., Koitabashi, T. and Wada, E. (1995) Determination of the stable isotope ratio of total dissolved inorganic carbon in lake water by GC/C/IRMS. *Limnology and Oceanography* 40(5), pp.994-1000
- 4) Miyajima, T., Sugimoto, A., Hanba, Y.T. and Wada, E. (1995) Methane production from peat of tropical swamp forest in Narathiwat, Thailand. *Research Related to the UNESCO's Man and Biosphere Programme* pp.25-32

MATSUBARA, Kenji 松原健司

- 17) 松原健司・南浩史 (1995) 鳥類の体内における窒素・炭素安定同位体比の変動とそれを応用した食性解析. *RADIOISOTOPES* 931-932.
- 18) 南浩史・松原健司 (1995) 炭素・窒素安定同位体を利用したフィールドにおける水鳥類の食性解析. *RADIOISOTOPES* 933-934.
- 19) Matsubara, T. (1995) Intra and inter specific food habit variation for the breeding ducks in Selenga delta, Lake Baikal suggested by stable isotopes. *Researches Related to the UNESCO'S Man and the Biosphere Programme in Japan* 39-44.
- 20) Matsubara, T. (1995) Food habit determination of shovelers *Anas clypeata* wintering in hypertrophic water body by using stable isotope analyses. *Researches Related to the UNESCO'S Man and the Biosphere Programme in Japan* 67-70.

MATSUI, Kiyoshi 松井淳

- 19) Matsui, K. 1995. Sex expression, sex change and fruiting habit in an *Acer rufinerve* population. *Ecological Research* 10: 65-74.
- 20) Okazaki, J., Yamanaka, N., Matsui, K. & Kinoshita, E. 1995. A checklist of sexual system of angiosperm species and genera in the Japanese flora I. *Annual Report of Botanic Garden, Faculty of Science, Kanazawa University* 18: 33-62.

OHKOUCHI, Naohiko 大河内直彦

- 1) 大河内直彦 (1990) 相模湾の活構造とテクトニクス . 地学雑誌 99: 458-470.
- 2) Murayama, M., Okada, M., Ohkouchi, N., and Matsuoka, H. (1990) Piston Coring. in Preliminary Report of the Hakuho Maru Cruise KH90-1 pp. 162-165.
- 3) 大河内直彦 (1991) 氷期-間氷期の海洋環境の変遷 . 月刊地球 13: 525-530.
- 4) 大河内直彦・平朝彦 (1991) 海底堆積物からみた氷期・間氷期の海洋環境の変化 . 第四紀研究 30: 297-312.
- 5) Ohkouchi, N. (1992) Deep water nutrient history in the western equatorial Pacific during the last 320 kyr revealed from cadmium records. M.Sci. Thesis, Univ. Tokyo 117p.
- 6) 岡田誠・大河内直彦 (1992) 氷期-間氷期変動と深層水循環 . 岩波科学 10: 648-653.
- 7) Ohkouchi, N., Taira, A., Kawamura, K., and Ishiwatari, R. (1993) Late Quaternary biomarker records in the western equatorial Pacific. *EOS, Trans. Am. Geophys. Union* 74 suppl.: 366.
- 8) 大河内直彦・川幡穂高・平朝彦 (1993) 最終氷期の太平洋での深層水循環 . 月刊海洋 25: 329-333.
- 9) Ohkouchi, N., Kawahata, H., Murayama, M., Okada, M., Nakamura, T., and Taira, A. (1994) Was deep water formed in the North Pacific during the late Quaternary?: cadmium evidence from the northwest Pacific. *Earth and Planetary Science Letters* 124: 185-194.
- 10) Ohkouchi, N., Taira, A., Kawamura, K., and Ishiwatari, R. (1994) Relationship between terrigenous input and marine productivity: biomarker evidence from the western tropical Pacific sediments during the late Quaternary. *EOS, Trans. Am. Geophys. Union*
- 11) 大河内直彦・河村公隆・中村俊夫・平朝彦 (1994) バイオマーカーからみた過去2万年 . 月刊海洋 26: 415-419.

- 12) Ohkouchi, N., Kawamura, K., Nakamura, T., Taira, A. (1994) Small changes in the sea surface temperature during the last 20,000 years: Molecular evidence from the western tropical Pacific. *Geophysical Research Letters* 20: 2207-2210.
- 13) Ohkouchi, N. (1995) Lipids as biogeochemical tracers in the late Quaternary. Ph.D. Thesis, University of Tokyo 220p.
- 14) Ohkouchi, N., Kawamura, K., Kawahata, H., and Taira, A. (1995) Organic geochemistry of deep sea sediments: how it contributes to paleoceanography. in *Global Fluxes of Carbon and Its Related Substances in the Coastal Sea-Ocean-Atmosphere System* pp. 533-538.
- 15) Ohkouchi, N., Kawahata, H., Okada, M., Murayama, M., Nakamura, T., and Taira, A. (1995) Benthic foraminifera cadmium record from the western equatorial Pacific. *Marine Geology* 127: 167-180.
- 16) 大河内直彦・阿波根直一・池原実・平朝彦 (1995) 南極海の堆積物の研究とその問題点 . 月刊海洋 27: 374-377.
- 17) 高橋孝三・大場忠道・山崎英樹・大河内直彦 (1995) レディオラリア化石による過去 8 万年間の西赤道太平洋の海洋環境変遷 . 月刊海洋 27: 466-473.

SEKINO, Tatsuki 関野樹

- 1) Sekino, T. and Yoshioka, T. (1995) The relationship between nutritional condition and diel vertical migration of *Daphnia galeata*. *Jpn. J. Limnol.* 56: 145-150.

TAYASU, Ichiro 陀安一郎

- 4) Sugimoto, A., Inoue, T., Tayasu, I., Wada, E. and Abe, T. (1995) Methane emissions from different castes of termites in Narathiwat, Thailand. *Tropics* 4: 253-257.

YACHI, Sigeo 谷内茂雄

- 1) Yachi, S. (1995) How can honest signalling evolve? The role of handicap principle. *Proc. R. Soc. Lond. B* 262:283-288.

 **C. Guest Scientists 研究協力員** 

EZAKI, Yasuo 江崎保男

1. Ezaki, Y. (1995) Establishment and maintenance of the breeding territory in the polygynous great reed warbler. *Ecol. Res.* 10: 359-368.
2. Ezaki, Y. and Urano, E. (1995) Intraspecific comparison of ecology and mating system of the great reed warbler *Acrocephalus arundinaceus*: why different results from different populations? *Jap. J. Ornithol.* 44:107-122.
3. 江崎保男・宮良全修 (1995) 与那国島におけるコウノトリ *Ciconia boyciana* の集団越冬. 山階鳥研報 27: 92-97.
4. Urano, E., Ezaki, Y. and Yamagishi, S. eds. (1995) The ecology and mating system of the great reed warbler: an inhabitant of reed marshes. 207pp. The Ornithological Society of Japan.

FUKAMI, Kimio 深見公雄

1. Baldia, S. F., Fukami, K., Nishijima, T. and Hata, Y. (1995) Growth responses of *Spirulina platensis* to some physico-chemical factors and the kinetics of phosphorus utilization. *Fish. Sci.* 61: 331-335.
2. 深見公雄・宇野潔 (1995) 土佐湾の沿岸フロントおよび黒潮フロント海域における細菌ならびに細菌捕食性鞭毛虫の分布と変動 . 沿岸海洋研究 33: 29-38.
3. 西島敏隆・張敬国・深見公雄 (1995) 浦ノ内湾海水中におけるビタミン B12 結合物質の分布と季節的消長 . 日本水産学会誌 61: 762-768.
4. Fukami, K., Yuzawa, A., Sakaguchi, K. and Nishijima, T. (1995) Prevention of noxious red tide by algicidal bacteria. *Proceedings of the International Conference on Ecological System Enhancement Technology for Aquatic Environments, Japan International Marine Science and Technology Federation, Tokyo.* pp. 89-94.
5. Largo, D. B., Fukami, K., Nishijima, T. and Ohno, M. (1995) Laboratory-induced development of the ice-ice disease of the farmed red algae *Kappaphycus alvarezii* and *Euclima denticulatum* (Solieriaceae, Gigartinales, Rhodophyta). *J. appl. Phycol.* 7: 539-543.
6. Largo, D. B., Fukami, K. and Nishijima, T. (1995) Occasional pathogenic bacteria promoting ice-ice disease in the carrageenan-producing red algae *Kappaphycus alvarezii* and *Euclima denticulatum* (Solieriaceae, Gigartinales, Rhodophyta). *J. appl. Phycol.* 7: 545-554.
7. Fukami, K. (1995) Contribution of particle-associated bacteria to the abundance and the activity of total bacterial assemblage in the Antarctic. *Bull. Mar. Sci. Fish., Kochi Univ.* 15: 1-6.
8. 深見公雄 (1995) 微細藻類と細菌類の共生と拮抗 . In: 微生物の共生系—微生物の生態 21 (清水潮編) pp. 1-16. 学会出版センター、東京.

FURUKAWA, Hisao 古川久雄

1. Furukawa, H. (1995) Meiji Japan's Encounter with Modernization. *Southeast Asian Studies* 33:479-518
2. 古川久雄 (1995) 東南アジアにおける生態環境の変貌. 重点領域研究「総合的地域研究」成果報告書シリーズ 10:5-15

HIDAKA, Toshitaka 日高敏隆

1. Koshio, C. and Hidaka, T. (1995) Reproductive behaviour of the white-tailed zygaenid moth, *Elcysma westwoodii* (Lepidoptera, Zygaenidae) I. Mating sequence. *J. Ethol.* 13: 159-163.
2. 日高敏隆・羽田節子訳 (1995) 鼻行類 (ハラルト・シュテュンブケ著) 新装版 . 120pp. 博品社、東京
3. 日高敏隆・野田保之訳 (1995) 生物から見た世界 (ヤーコプ・フォン・ウクスキュル著) 新装版 . 307pp. 新思索社、東京
4. 日高敏隆 (1995) 動物たちの言いぶん . In: 脳ミソを哲学する (筒井康隆編) pp. 91-121. 講談社、東京

HINO, Shuji 日野修次

1. 対馬康夫・日野修次・大高明史・齋藤捷一 (1995) 津軽十二湖湖沼群の水質化学特性 陸水学雑誌 56: 9-18.
2. Chikita, K., Sakata, K. and Hino, S. (1995) Transportation of suspended sediment slowly settling in a caldera lake. *Jpn. J. Limnol.* 56: 245-257.

IMAI, Ichiro 今井一郎

1. 山口峰生・今井一郎 (1995) 有害鞭毛藻シャットネラの生理・生態と赤潮発生予知の現状．資源環境対策 31: 173-182.
2. 長井敏・堀豊・眞鍋武彦・今井一郎 (1995) 播磨灘海底泥中から見いだされた大型珪藻 *Coscinodiscus wailesii* Gran 休眠細胞の形態と復活過程．日本水産学会誌 61: 179-185.
3. Nagasaki, K., Ando, M., Imai, I., Itakura, S. and Ishida, Y. (1995) Virus-like particles in unicellular apochlorotic microorganisms in the coastal water of Japan. Fish.Sci. 61: 235-239.
4. 山口峰生・今井一郎・松尾豊 (1995) 広島湾における植物プランクトンの現存量と光合成速度の季節変化．南西水研研報 28: 63-72.
5. Yamaguchi, M., Itakura, S., Imai, I. and Ishida, Y. (1995) A rapid and precise technique for enumeration of resting cysts of *Alexandrium* spp. (Dinophyceae) in natural sediments. Phycologia 34: 207-214.
6. 今井一郎 (1995) 有害赤潮ラフィド藻殺滅細菌の分離，および沿岸海域における殺藻細菌と赤潮ラフィド藻の動態．平成6年度赤潮対策技術開発試験報告書，マリンバイオテクノロジーによる赤潮被害防止技術開発試験．pp.68-92. 水産庁．
7. Ikegami, S., Imai, I., Kato, J. and Ohtake, H. (1995) Chemotaxis toward inorganic phosphate in the red tide alga *Chattonella antiqua*. J. Plankton Res. 17: 1587-1591.
8. Imai, I., Ishida, Y., Sakaguchi, K. and Hata, Y. (1995) Algicidal marine bacteria isolated from northern Hiroshima Bay, Japan. Fish.Sci. 61: 628-636.
9. 山口峰生・板倉 茂・今井一郎 (1995) 広島湾海底泥における有毒渦鞭毛藻 *Alexandrium tamarense* および *Alexandrium catenella* シストの現存量と水平・鉛直分布．日本水産学会誌 61: 700-706.
10. 今井一郎 (1995) 珪藻類を用いたシャットネラ赤潮の生態学的防除の可能性．月刊海洋 27: 603-612.
11. Nagai, S., Hori, Y., Manabe, T., Imai, I. (1995) Restoration of cell size by vegetative cell enlargement in *Coscinodiscus wailesii* (Bacillariophyceae). Phycologia 34: 533-535.
12. 今井一郎 (1995) 赤潮をやっつける細菌．In: 地球をまもる小さな生き物たち - 環境微生物とバイオレメディエーション - .(ed. by 児玉徹・大竹久夫・矢木修身) pp.100-108, 技報堂出版, 東京．

ITINO, Takao 市野隆雄

1. Itino, T. and Yamane, Sk. (1995) The vertical distribution of ants on canopy trees in a Bornean lowland rain forest. Tropics 4: 277-281.
2. 市野隆雄 (1995) アリを味方につけた熱帯の植物たち. 月刊言語 24(8): 62-71.
3. Kato, M., Inoue, T., Hamid, A. A., Nagamitsu, T., Merdek, M. B., Nona, A.R., Itino, T., Yamane, Sk. and Yumoto, T. (1995) Seasonality and vertical structure of light-attracted insect communities in a tropical lowland dipterocarp forests in Sarawak. Researches on Population Ecology 37: 59-79.

IWASA, Yoh 巖佐庸

1. Iwasa, Y. and Kubo, T. (1995) Forest gap dynamics with partially synchronized disturbances and gap age distribution. Ecological Modelling 77:257-271.
2. Yamauchi, A. and Iwasa, Y. (1995) Coupling of fermentation and foraging strategies of herbivorous mammals. Journal of theoretical Biology 172:1-11.
3. Iwasa, Y. and Levin, S.A. (1995) The timing of life history events. Journal of theoretical Biology 172:33-42.
4. Haccou, P. and Iwasa, Y. (1995) Optimal mixed strategies in stochastic environments. Theoretical Population Biology 47:212-243.
5. Antonovics, J., Iwasa, Y. and Hassell, N.P. (1995) A generalised model of parasitoid, veneral, and vector-based transmission processes. American Naturalist 145:65-75.

6. Iwasa, Y., T.J. de Jong and P.G.L. Klinkhamer, (1995) Why pollinators visit only a fraction of the open flowers on a plant and its consequence for fitness curves of plants. *Journal of Evolutionary Biology* 8:439-453.
7. Harada, Y., Ezoe, H., Iwasa, Y., Matsuda, H. and Sato, K. (1995) Population persistence and spatially limited social interaction. *Theoretical Population Biology* 48:65-91.
8. Iwasa, Y. and Pomiankowski, A. (1995) Continual change in mate preferences. *Nature* 377:420-422.
9. Kubo, T and Iwasa, Y. (1995) Inferring the rates of branching and extinction from molecular phylogenies. *Evolution* 49:694-704.
10. Pomiankowski, A. and Iwasa, Y. (1995) What causes diversity in male sexual characters? *Revue Suisse de Zoology* 102:883-894.
11. Iwasa, Y., Kubo, T. and Sato, K. (1995) Maintenance of forest species diversity and latitudinal gradient. *Vegetatio* 121:127-134.
12. 輪湖博ほか9名 (1995) 生物物理を考えよう！200号記念座談会．*生物物理* 200:136-157.
13. 巖佐庸 (1995) 生態学で，数理モデルはどのような役割を果たせるのか？特集『数理生態学の魅力』．*日本生態学会誌* 45:163-166.
14. 巖佐庸 (1995) 「生態系」『数理情報科学事典』（大矢雅則ら編）朝倉書店 pp. 525-528
15. 巖佐庸 (1995) 生物学とゲーム理論．*経済セミナー* 491: 23.
16. 巖佐庸・久保拓弥 (1995) 分子系統樹から進化史における生物の絶滅率を推定する．*種生物研究* 19:51-56.

KAWABATA, Zenichiro 川端善一郎

1. 田中伸幸・稲森悠平・川端善一郎・森忠洋・板山朋聡・須藤隆一 (1995) マイクロコズムにおける代謝産物を考慮した微生物間相互作用のシミュレーション解析．*水環境学会誌* 18: 109-120.
2. Kawabata, Z., Matsui, K., Okazaki, K., Nasu, M., Nakano, N. and Sugai, T. (1995) Synthesis of a species defined microcosm with protozoa. *J. Protozool. Res.* 5(1): 23-26.
3. Kawabata, Z. and Hirano, Y. (1995) Growth pattern and cellular nitrogen and phosphorus contents of the dinoflagellate *Peridinium penardii*(Lemm.) Lemm. causing a freshwater red tide in a reservoir. *Hydrobiologia* 312: 115-120.
4. 田中伸幸・稲森悠平・川端善一郎・森忠洋・板山朋聡・須藤隆一 (1995) マイクロコズムにおける組換え細菌の消長に関するシミュレーション解析．*水処理生物学会誌* 3(1): 33-41.
5. Nakajima, H. and Kawabata, Z. (1995) Sensitivity analysis in microbial communities. In: *Microbial Diversity in Time and Space* (eds. by Colwell, R., U. Shimidzu & K. Owada). Plenum, New York 250 pp.
6. Iseri, Y., Tano, J., Kawabata, Z. and Sasaki, M. (1995) Suppression of dinoflagellate *Peridinium bipes* bloom in a reservoir by ultraviolet radiation. *Proc. Intern. Conf. Hydropower* 1265-1273.
7. 竹門康弘・谷田一三・玉置昭夫・向井宏・川端善一郎 (1995) 棲み場所の生態学．シリーズ「共生の生態学」7．平凡社，東京．279pp.
8. 川端善一郎 (1995) 多種共存システムを造る：水系マイクロコスモス．In: *地球共生系 - 多様な生物の共存する仕組み* (第9回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会編)．pp.80-91．クバプロ，東京．

KOHDA, Masanori 幸田正典

1. Kohda, M. (1995) Does male-mating attack in the herbivorous cichlid *Petrochromis polyodon* facilitate the coexistence of herbivorous congeners? *Ecol. Fresh. Fish.* 4: 152-159.
2. Kohda, M. (1995) Territoriality of male cichlid fishes in Lake Tanganyika. *Ecol. Fresh. Fish.* 4: 180-184.
3. Kohda, M., Tanimura, M., Kikue-Nakamura, M. and Yamagishi, S. (1995) Sperm drinking of female catfishes: a novel mode of insemination. *Env. Biol. Fish.* 42: 429-435.

4. Sakai, Y. and Kohda, M. (1995) Foraging by mixed-species groups involving a small angelfish, *Centropyge ferrugatus*(Pomacentridae). J. J. Ichthyol. 41: 429-435.
5. Sakai, Y and Kohda, M. (1995) Anti-egg predator behaviors of the small angelfish, *Centropyge ferrugatus*. Env. Biol. Fish. 43: 401-405.
6. Mboko, S. K. and Kohda, M. (1995) Pale and dark dichromatism related to microhabitat in a herbivorous Tanganyikan cichlid fish, *Telmatochromis temporalis*. J. Ethol. 13: 77-83.

KOHYAMA, Takashi 甲山隆司

1. Kohyama, T. and Shigesada, N. (1995) A size-distribution-based model of forest dynamics along a latitudinal environmental gradient. Vegetatio 121:117-126.
2. Nakashizuka, T. and Kohyama, T. (1995) The significance of the asymmetric effect of crowding for coexistence in a conifer-broadleaved forest. Journal of Vegetation Science 6: 509-516.
3. Turner, I.M., Gong, W.K., Ong, J.E., Bujang, J.S. and Kohyama, T. (1995) The architecture and allometry of mangrove saplings. Functional Ecology 9: 205-212.
4. Kohyama, T. (1995) Spatial and temporal patterns of subalpine *Abies* forests in Central Japan. In E.O. Box, ed., Vegetation Science in Forestry, pp. 391-407. Kluwer, Dordrecht.

KONDO, Takaki 近藤高貴

1. 近藤高貴 (1995) カワシンジュガイは表記遺存種？. ちりぼたん 25 : 59-63.
2. Kondo, T. and Abe, N. (1995) Habitat preference, food habits and growth of juvenile *Lates angustifrons* and *Lates mariae* (Pisces: Centropomidae) in Lake Tanganyika. Ecological research 10: 375-280.
3. 川那部浩哉・近藤高貴 (1995) 生態学. In: ブリタニカ国際大百科事典第 10 巻. pp.351-361.

MORI, Seiichi 森誠一

1. Mori, S. (1995) Spatial and temporal variations in nesting success and the causes of nest losses of the freshwater three-spined stickleback, *Gasterosteus aculeatus*. Environ. Biol. Fish., 43: 323-328.
2. Mori, S. (1995) Factors associated with and fitness effects of nest-raiding in three-spined stickleback, *Gasterosteus aculeatus*, in a natural situation. Behaviour 132: 1011-1023.
3. 森誠一 (1995) 津市丘陵地のため池におけるカワバタモロコ. 三重自然誌 59-62.
4. 森誠一 (1995) 養老山地南部における蝶類. 三重自然誌 2:70-73.

MORINO, Hiroshi 森野浩

1. Morino, H. & Ortal, R. (1995) Two *Platorchestia* species (Amphipoda : Talitridae) from Israel. Crustaceana 68:824-832.
2. Morino, H. & Whitman, N. (1995) A new species of the genus *Gammarus* (Crustacea : Amphipoda) from fresh waters of Russian Far East. Publ. Itako Hydrobiol. Stn. 8:27-36.

MUKAI, Hiroshi 向井宏

1. 向井宏 (1995) 「第 4 章 サンゴ礁の草原」シリーズ[共生の生態学] 5 「サンゴ礁 - 生物がつくった <生物の楽園>」平凡社 pp.232
2. 向井宏 (1995) 藻場 (海中植物群落) の生物群集 (7) - 海草葉上生物群集の物質的基盤 - 海洋と生物 99 : 285-289

3. Iizumi, H., Taguchi, S., Minami, T., Mukai, H. and Maekawa, S. (1995) Distribution and variability of nutrients, chlorophyll a, particulate organic matters, and their carbon and nitrogen contents, in Akkeshi-Ko, an estuary in northern Japan. Bull. Hokkaido Natl. Fish. Res. Inst. 59:43-67
4. Mukai, H. and Iijima, A. (1995) Grazing effects of a gammaridean Amphipoda, *Ampithoe* sp., on the seagrass, *Syringodium isoetifolium*, and epiphytes in a tropical seagrass bed of Fiji. Ecol. Res. 10:243-257
5. 向井宏 (1995) 「第5章 海のベントス群集と棲み場所の構造」シリーズ[共生の生態学] 7 「棲み場所の生態学」平凡社 pp.279
6. Tayasu, I., Shigesada, N., Mukai, H. and Caswell, H. (1995) Predator-mediated coexistence of epiphytic grass shrimp that compete for refuges. Ecological Modelling (in press)
7. 向井宏 (共訳) : パーソンス、タカハシ、ハーグレイブ著 「海洋の生物過程」東海大学出版会

NAKAGOSHI, Nobukazu 中越信和

1. Nakagoshi, N. (1995) Pine forests in East Asia. In: Vegetation Science in Forestry. (eds. Box, E.O.; Peet, R.K.; Masuzawa, T.; Yamada, I.; Fujiwara, K.; Maycock, P.F.) pp. 85-104. Kluwer Academic Publishers, Dordrecht. [マツ林、里山、極相林、群系、植生]
2. Naito, K., Manabe, T. and Nakagoshi, N. (1995) A habitat of *Lithospermum erythrorhizon* Sieb. et Zucc. (Boraginaceae), a threatened plant, in Hirao-dai limestone plateau, Kyushu. Mus. Nat. Hist. 14: 99-111. [保全生物学、自然保護、絶滅危惧植物、火入れ草地]
3. Hong, S.-K., Nakagoshi, N. and Song, H.-K. (1995) Productivity of secondary pine forests and their sustainable management in Korea. In: Proceedings of IUFRO International Workshop on Sustainable Forest Managements 1994 Furano. (eds. Sakai, H.; Ide, Y.) pp. 81-89. The University Forests, The University of Tokyo.
4. Nakagoshi, N. and Naito, N. (1995) Landscape management and plant conservation in the national parks in Japan. In: Development of National Strategy for Conservation of National Parks and Protected Areas in Korea. (ed. Lee, I.-K.) pp. 127-137. Korean Biodiversity Council & National Parks Authority, Seoul. [国立公園、自然保護、絶滅危惧植物、植生管理、国家戦略、生物多様性]
5. Nakagoshi, N. and Abe, T. (1995) Recent changes in mire vegetation in Yawata, southwestern Japan. Wetlands Ecology and Management 3: 97-109. [湿原、植生、群集、植物相、変遷]
6. Nakagoshi, N. and Touyama, Y. (1995) Disturbances and recovery processes of a pine forest ecosystem in a fire regime. Journal of International Development and cooperation 1: 43-59. [山火事、生態系、マツ林、生物群集、攪乱、回復過程]
7. Hong, S.-K., Nakagoshi, N. and Kamada, M. (1995) Human impacts on pine-dominated vegetation in rural landscapes in Korea and western Japan. Vegetatio 116: 161-172. [景観、マツ林、里山、群集、人為]
8. 中越信和 (1995) 編著. 景観のランドデザイン. 178pp. 共立出版, 東京. [景観、生態学、都市、景観工学、農村、commons]
9. Naito, K. and Nakagoshi, N. (1995) The conservation ecology of *Iris rossii* Baker (Iridaceae), a threatened plant in rural Japan. Journal of Plant Research 108: 477-482. [保全生物学、自然保護、絶滅危惧植物、採草地]
10. 池上佳志・中越信和 (1995) 広島県瀬戸田地区の景観構造. 広島大学総合科学部紀要 IV 21: 131-144. [景観システム、エコトープ、環境計画、社会調査]
11. Nakagoshi, N. (1995) Changing cultural landscapes in Japan. In: Cultural Landscapes of Universal Value - Components of a Global Strategy. (eds. von Droste, B.; Plachter, H. and Rössler, M.) pp. 128-138. Gustav Fischer Verlag, Jena. [文化景観、景観構造、社会変革、農用林]
12. 石井正人・松田方典・中越信和 (1995) 都市近郊林の林相改良施業 - アカマツ・常緑広葉樹混交林から常緑広葉樹林への誘導. 日本林学会論文集 106: 193-194 [森林造成、照葉樹林、樹木個体群、群集、択伐]

13. 山場淳史・中越信和 (1995) マツ林型里山の commons 的 管理の 経済 評価. 日本 林学会 論文集 106: 121-124. [里山、マツタケ、共同作業、都市近郊、社会構造、運営]
14. 中越信和・安部哲人 (1995) 広島 県 芸北 町 八幡 地区 の 湿原 植生 の 変容. 高原 の 自然 史 1: 5-38. [湿原、群集、植物相、変遷、文献調査]

NISHIMURA, Noboru 西村登

1. 西村登 (1995) 水生動物から但馬地方諸河川の水質の現状 - 1988 年と 1993 年および 1960 年 - 1980 年頃との比較. 関西自然保護機構会報 17(1): 3-17.
2. 西村登 (1995) 兵庫県浜坂町大栃川・田君川ほか小河川ならびに浜坂・諸寄地区湧水の水生動物. In: 兵庫県浜坂町「自然の現況」(山本茂信編) pp.183-194. 兵庫県浜坂町
3. 西村登・原昌久・山本一幸(1995) 兵庫県浜坂町久斗川水系の水生動物. In: 兵庫県浜坂町「自然の現況」(山本茂信編) pp.150-182. 兵庫県浜坂町
4. 西村登 (1995) 川に川をつくらせる - チューリッヒ・ミュンヘンで近自然工法で改修された川をみる. 兵庫陸水生物 46:60-61.
5. 西村登 (1995) ヨーロッパの自然保護区と近自然工法で改修された川について. 自然とともに 31:2. 兵庫県
6. 西村登 (1995) 欧州のビオトープを視察して. 神戸新聞文化欄 1995/06/28.

OHTAKA, Akifumi 大高明史

1. 對馬康夫・日野修次・大高明史・齋藤捷一 (1995) 津軽十二湖湖沼群の水質化学特性. 陸水雑 56: 9-18.
2. 高橋友宏・大高明史 (1995) 津軽十二湖・越口の池水系の河川における底生動物の分布に関する予備的研究. 弘前大学理学部深浦臨海実習所報告 15: 23-38.
3. Ohtaka, A. (1995) A new species of the genus *Rhyacodrilus Bretscher* (Oligochaeta, Tubificidae) from Japanese lakes. Zool. Sci. 12: 491-498.
4. Ohtaka, A. and Nishino, M. (1995) Studies on the aquatic oligochaete fauna in Lake Biwa, central Japan. I. Checklist and taxonomic remarks. Jpn. J. Limnol. 56: 167-182.

ONOYAMA, Keiichi 小野山敬一

1. 小野山敬一 (1995) Re: Consciousness in Evolve. EVOLVE (423).
2. 小野山敬一 (1995) Re: Re: Re: no Re:. EVOLVE (429).
3. 小野山敬一 (1995) Re: The value of "biodiversity". EVOLVE (433).
4. 小野山敬一 (1995) 類似性と「みにくいアヒルの子の定理」. 統計数理研究所共同研究リポート (67): 1-13.
5. 中村永友・小西貞則・小野山敬一・緒方一夫・大隅昇 (1995) 混合分布モデルに基づくキバハリアリ計測データの分類. 統計数理研究所共同研究リポート (67): 31-40.
6. 緒方一夫・小野山敬一・大隅昇・中村永友 (1995) キバハリアリの計測データ一覧. 統計数理研究所共同研究リポート (67): 47-62.
7. 小野山敬一・柏原聡 (1995) A Japanese translation of the preface of Kammerer's "The inheritance of acquired characteristics". EVOLVE (786).
8. 小野山敬一 (1995) A list of foreign books on evolution. EVOLVE (827, 828).
9. 小野山敬一 (1995) In the beginning is the action of classification. EVOLVE (857).
10. 小野山敬一 (1995) Throughout the world is the action of classifying. EVOLVE (863).
11. 倉田亜以土・小野山敬一 (1995) 同所性野ネズミ 3 種の行動経路. 森林保護 (248): 28-30.
12. 小野山敬一 (1995) 発見アリ! 電脳辞典せっせ: インターネット上に全国 258 種類の図鑑構築. 日本経済新聞 1995/10/17: 40.
13. アリ類データベース作成グループ (1995) 日本産アリ類カラー画像データベース. CD-ROM, 166.6MB. 日本蟻類研究会, 東京.

SAIGUSA, Masayuki 三枝誠行

1. Saigusa, M. & Akiyama, T. (1995) The tidal rhythm of emergence, and the seasonal variation of this synchrony, in an intertidal midge. Biol. Bull. 188:166-178.
2. Saigusa, M. (1995) Bioassay and preliminary characterization of ovigerous-hair stripping substance (OHSS) in hatch water of crab larvae. Biol. Bull. 189:175-184.
3. 三枝誠行 (1995) 潮汐リズムの位相発現に関するいくつかの話題 < 続 > - 潮汐リズムと半月周期リズム研究の新しい展開 - 海洋と生物 17(No. 1) 69-76.
4. 三枝誠行 (1995) 生物リズムの研究テクニック - 幼虫放出、放卵、羽化および遊泳活動の時間的経過を記録する方法 . 海洋と生物 17(No. 3) : 252-258.
5. 三枝誠行 (1995) 半田山で生活する野鳥の季節変化 - 1994 年春から 1995 年春にかけての記録 . 都市近郊林 (半田山) の自然特性およびその環境保全機能に関する研究 (IX) 千葉増喬三編 . 平成 6 年度岡山大学教育研究学内特別経費研究成果報告書 P.35-40.

SAKAMOTO, Kazunori 坂本一憲

1. 島本光久・坂本一憲・吉田富男 (1995) 熱乾処理土壌における地力N発現に対する微生物バイオマスNの寄与 . 日本土壌肥科学雑誌 66 : 27-31 [土壌、微生物バイオマス N、地力 N、土壌熱乾処理]
2. 藤原英司・坂本一憲・吉田富男 (1995) 各種土壌における細菌バイオマスの存在様式 . 千葉大学園芸学部学術報告 49 : 19-23[土壌、細菌バイオマス、土壌団粒、直接計数法]
3. 坂本一憲 (1995) 土壌中の微生物バイオマス量およびその呼吸活性に影響する諸因子の解析 . 日本土壌肥科学雑誌 66 : 213-214 [土壌、微生物バイオマス、土壌呼吸、有機質資材、土壌理化学性、 qCO_2]
4. 坂本一憲・大羽裕 (1995) 各種有機物資材の施用が土壌中の糸状菌と細菌のバイオマス比に及ぼす影響 . 日本土壌肥科学雑誌 66 : 418-421 [土壌、糸状菌バイオマス、細菌バイオマス、糸状菌 / 細菌バイオマス比、有機質資材]
5. Khan, M.K., Sakamoto, K. and Yoshida, T. (1995) Dual inoculation of peanut with *Glomus* sp. and *Bradyrhizobium* sp. enhanced the symbiotic nitrogen fixation as assessed by ^{15}N -technique. Soil Science and Plant Nutrition 41 : 769-779 [soil, arbuscular mycorrhizal fungi, rhizobium, symbiosis, N fixation, peanut]

SAKIO, Hitoshi 崎尾均

1. 崎尾均・中村太士・大島康行 (1995) 河畔林・溪畔林研究の現状と課題 . 日本生態学会誌 45:291-294.
2. 崎尾均 (1995) 溪畔域の攪乱体制と樹木の生活史からみた溪畔林の動態 . 日本生態学会誌 45:307-310.
3. 崎尾均 (1995) 溪畔域の生態的構造と機能 - 森林と河川の相互作用 - II . 生活史からみた溪畔林の動態 (第 41 回日本生態学会大会自由式シンポジウム記録) 森林科学 13:61-63.

SUGIO, Koji 杉尾幸司

1. Sugio, K. (1995) Trunk trail foraging of the fungus-growing termite *Macrotermes carbonarius* (Hagen) in southeastern Thailand. TROPICS 4: 211-222.

SUGIYAMA, Yukimaru 杉山幸丸

1. 杉山幸丸 (1995) 海外調査と経済援助 . 学術月報 48(5):547.

2. Sugiyama, Y. (1995) Tool-use for catching ants by chimpanzees at Bossou and Monts Nimba, West Africa. *Primates* 36(2):193-205.
3. Sugiyama, Y. (1995) Drinking-tools of wild chimpanzees at Bossou. *Amer. J. Primatol.* 37(3):263-269.
4. Yamakoshi, G. and Sugiyama, Y. (1995) Pestle-pounding behavior of wild chimpanzees at Bossou, Guinea: A newly observed tool-using behavior. *Primates* 36(4):489-501.
5. 杉山幸丸 (1995) 動物の道具使用と人類文化発生の条件. *霊長類研究* 11(3): 215-223.
6. 杉山幸丸・岩本俊孝・小野勇一 (1995) 餌付けニホンザルの個体数調整. *霊長類研究* 11(3):197-207.
7. 杉山幸丸 (1995) I P S の窓. *霊長類研究* 11(3):276-277.
8. 杉山幸丸 (1995) 加齢(老化)、生活史. In: 発達心理学辞典.(ed.by 岩田純一他) pp.114-115, p.382. ミネルヴァ書房, 京都.

TADAKI, Yoshiya 只木良也

1. 只木良也 (1995) 昨年の水飢饉に思う. *グリーン・エージ* 253:23-24. [森林, 水源涵養]
2. 只木良也・平野綾子・参鍋秀樹・横田岳人 (1995) 名古屋大学構内二次林の生態. 「都市の里山」の存在意義と調査二次林の構造. *日林中部支論集* 43:31-32. [二次林, 環境保全機能, 森林構造, 生産力]
3. 河口順子・平泉智子・只木良也 (1995) 名古屋大学構内二次林の生態. リターフォール量の季節変化. *日林中部支論集*: 33-34. [二次林, リター, 季節変化]
4. 平泉智子・河口順子・只木良也 (1995) 名古屋大学構内二次林の生態. リターフォール含有養分量の季節変化. *日林中部支論集*: 35-38. [二次林, リター, 養分含量]
5. 余 亮・萩原秋男・只木良也 (1995) 名古屋大学構内二次林の生態. 土壌呼吸の季節変化. *日林中部支論集*: 39-40. [二次林, 土壌呼吸, 土層内二酸化炭素]
6. 星野大介・只木良也 (1995) 名古屋大学構内二次林の生態. 構成樹種の葉の展開と直径成長. *日林中部支論集*: 41-43. [植物季節, 葉緑素濃度, 直径成長]
7. 只木良也 (1995) 生態学的な視点からのり面緑化を考える. In: のり面緑化の最先端 - 生態, 景観, 安定技術 - (ed.by 小橋澄治; 村井 宏) pp.1-12/211. ソフトサイエンス社, 東京. [斜面, 植生, 遷移]
8. 只木良也 (1995) 環境資源としての森林. In: 地球環境科学 (ed.by 樽谷 修) pp.95-100. 朝倉書店, 東京. [森林の環境保全]
9. 只木良也 (1995) 森が米を育てた、米が森を守った. *随想森林* 33:63-65. [森林, 米作]
10. 只木良也・宮田正 (1995) 森と生物. In: いま、愛知、東海を考える (ed.by 加藤雅信) pp.76-89. リバティ書房, 東京. [愛知, 二次林, 遷移]
11. 只木良也 (1995) 立木密度の違うコジイ幼齢林の構造と物質生産. *名古屋大学演習林報告* 14:1-24. [コジイ, 立木密度, 森林構造, 純生産量]

TAKEDA, Hirokiyo 武田博清

1. Hasegawa, M. and Takeda, H. (1995) Changes in feeding attributes of four collembolan populations during the decomposition process of pine needles. *Pedobiologia* 39: 155-169. (トビムシ、分解、アカマツ林、食性)
2. Takeda, H. (1995) A 5 year study of litter decomposition processes in a *Chamaecyparis obtusa* Endl. forest. *Ecological Research* 10: 95-104. (落葉分解、分解過程、窒素、炭素動態、土壌動物)
3. Takeda, H. (1995) Changes in the collembolan community during the decomposition of needle litter in a coniferous forest. *Pedobiologia* 39: 304-317. (遷移、分解過程、ヒノキ林、土壌動物、トビムシ)
4. Takeda, H. (1995) Templates for the organization of Collembolan communities. Structure and function of soil communities Eds. T. Abe. C. E. Edwards and B. R. Striganova. Kyoto, Kyoto University Press. 5-20. (15年の動態、個体群、群集、トビムシ、アカマツ林)

5. Yamashita, T., Takeda, H. and Kirton, L. G. (1995) Litter production and phenological patterns of *Dipterocarpus baudi* in a plantation forest. *Tropics* 5(1/2): 57-68. (熱帯林、落葉量、フタバガキ、養分循環、フェノロジ)
6. 武田博清 (1995) サンプルング法とデ - タ処理 . 土の中の生き物 . 青木淳一, 渡辺弘之 監修. 東京, 築地館書店. 58-71. (土壌動物、統計手法)
7. 武田博清 (1995) 野外生物群集を丸ごと扱う: 多種共存の仕組み . 地球共生系 多様な生物の共存する仕組み 1995年 第9回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会編. 東京, プバプロ. 104-105. (シンポジウム、序論)

TODA, Hideshige 戸田任重

1. 戸田任重・楊宗興・日高伸 (1995) 高濃度硝酸態窒素含有地下水の流入するアシ湿地における脱窒速度の実測 . *水環境学会誌* 18: 419-423.
2. 川島博之・戸田任重 (1995) 畑地周辺浅層地下水中硝酸態窒素濃度の予測 . *システム農学* 11: 175-181.
3. Yamazaki, T., Matsumoto, M., Asano, J. and Toda, H. (1995) Yield improvement of vegetables by using a super-water-absorbent polymer in sandy soil. *J. Arid Land Studies* 5S: 231-234.

URANO, Eiichiro 浦野栄一郎

1. Yamagishi, S., Urano, E. and Eguchi, K. (1995) Group composition and contributions to breeding by rufous vangas *Schetba rufain* Madagascar. *Ibis* 137: 157-161.
2. Urano, E., Ezaki, Y. and Yamagishi, S. ed. (1995) The ecology and mating system of the great reed warbler: an inhabitant of reed marshes. *Jap. J. Ornithol.* 44(3).
3. Ezaki, Y. and Urano, E. (1995) Intraspecific comparison of ecology and mating system of the great reed warbler *Acrocephalus arundinaceus*: why different results from different populations? *Jap. J. Ornithol.* 44: 107-122.
4. Urano, E. (1995) Female settling pattern and polygynous breeding in a great reed warbler population in Aomori Prefecture, northern Japan. *Jap. J. Ornithol.* 44: 157-168.

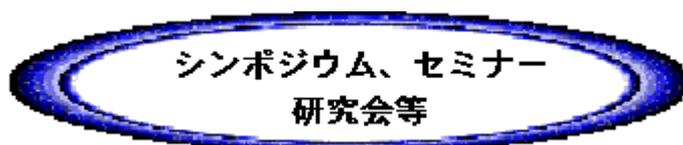
YAMAMOTO, Shin-ichi 山本進一

1. Yamamoto, S. (1995) Gap characteristics and gap regeneration in subalpine old-growth coniferous forests, central Japan. *Ecological Research* 10: 31-39.
2. Yamamoto, S. and Moriyama, Y. (1995) A comparative analysis of sapling architecture of *Chamaecyparis obtusa* and *C. pisifera* under closed canopies and in canopy gaps. *Journal of the Japanese Forestry Society* 77: 275-278.
3. Tanouchi, H. and Yamamoto, S. (1995) Structure and regeneration of canopy species in an old-growth evergreen broad-leaved forest in Aya district, southwestern Japan. *Vegetatio* 117: 51-60.
4. Yamamoto, S. and Tajimi, T. (1995) Canopy gaps and gap phase replacement in an old-growth evergreen broad-leaved forest of the Sadayama Forest Reserve, Shikoku Region, Southwestern Japan - A preliminary survey -. *Journal of the Japanese Forestry Society* 77: 494-498.
5. Yamamoto, S. and Itow, S. (1995) Studies in the evergreen broad-leaved forest of Tatera Forest Reserve, Tsushima, Japan. VII. Comparative analysis of the structure and composition of primary and secondary stands. *Bull. Faculty of Liberal Arts, Nagasaki Univ., (Natural Science)*, 36(1): 19-30.
6. Hara, T., Nishimura, N. and Yamamoto, S. (1995) Tree competition and species coexistence in a cool-temperate old-growth forest, southwestern Japan. *Journal of Vegetation Science* 6: 565-574.

7. Yamamoto, S. and Nishimura, N. (1995) A survey on the canopy gaps and gap phase replacement in an old - growth beech - dwarf bamboo forest, Wakasugi Forest Reserve, southwestern Japan. Japanese Journal of Forest Environment 37: 94-99.
8. Yamamoto, S., Nishimura, N. and Matsui, K. (1995) Natural disturbance and tree species coexistence in an old-growth beech-dwarf bamboo forest, southwestern Japan. Journal of Vegetation Science 6: 875-886.

YOH, Muneoki 楊宗興

1. 楊宗興 (1995) 拡散モデルからみた地下水N₂Oの起源 . 平成 6 年度気象環境研究会 温室効果ガスと農林生態系 55-62. [施肥土壌からのN₂O発生, 拡散モデル, 地下水N₂Oの起源]
2. Yoh, M. (1995) Livestock waste as a candidate for the missing N₂O source responsible for the global imbalance of its δ¹⁵ N: A preliminary determination of N₂O flux and the nitrogen isotope composition of N₂O emitted from grassland soil amended with cattle and swine waste. UK/Japan Workshop: Controlling methane and the nitrogen cycle on farms. Bedford, UK. 59-62. [δ¹⁵N, N₂O, Livestock waste]
3. Yoh, M., Toda, H., Kanda, K. and Tsuruta, H. (1995) Diffusion model analysis of N₂O emission from fertilized soil and its implication for the origin of groundwater N₂O. International Symposium on Soil -Source and Sink of Greenhouse Gases. Nanjing, China. 11. [N₂O emission, diffusion analysis, fertilized soil]
4. Watanabe T., Osada, T., Yoh, M. and Tsuruta, H. (1995) N₂O and NO emissions from grassland soils with the application of cattle and swine excreta. International Symposium on Soil -Source and Sink of Greenhouse Gases. Nanjing, China. 20. [N₂O and NO emissions, grassland, livestock wastes]
5. Yoh, M., Zhen, Y., Nojiri, Y., Sakamoto, M. and Terai, H. (1995) Dependency of CH₄ formation on anaerobic nitrogen fixation in wetlands. 1995 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies. Hawaii, USA. INORGANIC CHEMISTRY 341. [CH₄ formation, nitrogen fixation, wetlands]
6. 寺井久慈・楊宗興 (1995) 水圏からの窒素の放出 . In: 微生物の生態 20: 微生物のガス代謝と地球環境 pp.123-143. 学会出版センター 東京 [窒素、亜酸化窒素、水圏]



第 5 4 回 生態研セミナー

「オニドコロ Pgi 遺伝子座の分子集団遺伝学的研究」

寺内 良平 (京都大学理学部)

「社会性昆虫における栄養交換の進化」

増子 恵一 (専修大学経営学部)

1995年4月21日

京都市 京大理学部

参加者: 33人

第 5 5 回 生態研セミナー

「人為作用のある生態系における動物群集—山ほどある人為操作区を利用しよう—」

遊磨 正秀 (京都大学生態学研究センター)

「なぜ、種子サイズは集団内でばらつくのか？」

酒井 聡樹（東北大学理学部）

1995年5月19日

京都市 京大理学部

参加者：28人

生態研セミナー スペシャル

「カオス的な土の微生物」

服部 勉（東北大学遺伝生態研究センター）

「攪乱によって制御される植物個体群の存続に関する数理モデル考察」

瀬野 裕美（奈良女子大学理学部）

1995年5月26日

京都市 京大理学部

参加者：40人

第56回 生態研セミナー

「クマノミの性と社会：その可塑性と多型現象」

服部 昭尚（京都大学生態学研究センター）

「森林生態系内部における養分分布と物質循環」

徳地 直子（京都大学農学部）

1995年6月2日

京都市 京大理学部

参加者：33人

第57回 生態研セミナー

「里山の生態学」

田端 英雄（京都大学生態学研究センター）

「森林群集構造を決定する要因としての攪乱レジーム」

中静 透（森林総合研究所）

1995年6月16日

参加者：56人

第58回 生態研セミナー

「ブナ林低木の分布の背腹性」

藤田 昇（京都大学生態学研究センター）

「水圏微生物の分子生態学入門」

石田祐三郎（京都大学農学部）

1995年6月23日

京都市 京大理学部

参加者：20人

第59回 生態研セミナー

「タンガニイカ湖におけるヌマエビ類の生息場所－藻類食魚の子育場の利用」

成田 哲也（京都大学生態学研究センター）

「森林動態の格子モデル」

久保 拓弥（九州大学理学部）

1995年7月7日

京都市 京大理学部

参加者：23人

公募実習「河川生物に関する基礎実習」

代表者 中西正己・遊磨正秀（京都大学生態学研究センター）
1995年7月27日～8月3日
長野県木曽福島町木曽生物研究所
参加者：講師2名、受講者9名

国際セミナー「西太平洋国際野外生物学コース」

世話人 湯本貴和・井上民二（京都大学生態学研究センター）
1995年8月1日～31日
マレーシア・サラワク州、ランビル国立公園
参加者：講師16名（日本10、マレーシア5、シンガポール1）、受講者18名（日本6、台湾5、マレーシア5、韓国2）

生態研セミナー スペシャル

"Evolution of sociality with particular reference to evolution of soldiers, worker multiple queen social system"
Gadagkar, Raghavendra (Indian Institute of Science)
「シロアリの社会性進化の理論」
東 正彦（京都大学生態学研究センター）
「ハナバチの社会採餌と花資源の分割」
永光 輝義（京都大学生態学研究センター）「安定同位体を用いたシロアリ共生系の栄養獲得の研究」
陀安 一郎（京都大学生態学研究センター）
1995年9月13日
京都市 京大理学部
参加者：25人

公募研究会「水辺の環境利用：生き物とヒトの相互作用」

代表者 嘉田由紀子（琵琶湖博物館開設準備室）
平成7年9月15日～16日
滋賀県マキノ町
参加者：31名

第60回 生態研セミナー

「繁殖遅延の数理的研究」
高田 壮則（北海道東海大学国際文化学部）
「京都大学構内と芦生演習林における送粉系」
角谷 岳彦（京都大学生態学研究センター）
1995年9月29日
京都市 京大理学部
参加者：23人

生態研セミナー スペシャル

"Heterogeneity and the dynamics of complex ecosystems"
ohn W. Crawford (Scottish Crop Research Institute)

1995年10月4日
京都市 京大理学部
参加者：17人

公募研究会「植物と菌・ウイルスの生態学的相互作用」

代表者 巖佐庸（九州大学）
平成7年10月4日
京都大学理学部
参加者：29名

第61回 生態研セミナー

"Division of labour and hierarchy in primitive ants"
C.Peeters (Universite Paris-Nord)
「アリコロニーの繁殖特性と個体の行動」
中田 兼介（京都大学理学部動物学教室）
1995年10月6日
京都市 京大理学部
参加者：25人

公開講演会「生物多様性を促進する共生と社会性の発達」

代表者 安部琢哉（京都大学生態学研究センター）
1995年10月12日
京都市京大会館
参加者：40名

生態研セミナー スペシャル

"Evolution and ecology of Baikal sculpins"
Sideleva, V.G. (Russian Academy of Science)
1995年10月13日
京都市 京大理学部
参加者：20人

第62回 生態研セミナー

「パターンとプロセス：熱帯雨林におけるハリナシバチの花資源の分割」
永光 輝義（京都大学生態学研究センター）
「森林における炭素安定同位体比の空間分布とそれを決定する生理学的要因」
半場 祐子（京都大学生態学研究センター）
1995年10月20日
大津市 生態研センター
参加者：37人

生態研セミナー スペシャル

"The fig-fig wasp mutualism: resilience of neotropical forests to the stresses of El Nino"
Donald Windsor (Smithsonian Tropical Research Institute)
"Preliminary observations on the reproductive ecology of a diocious fig"
Rhett D. Harrison (Center for Ecological Research, Kyoto University)
1995年10月27日

京都市 京大理学部
参加者：29人

公募研究会「哺乳類の保全生物学：生態学的アプローチと遺伝学的アプローチの統合」

代表者 矢原徹一（九州大学理学部）
1995年10月28日
京都大学理学部
参加者：40名

生態研セミナー スペシャル

"Self-shading and leaf life span in tropical trees"
David Ackerly (Dep. of Organismie and Evolutionary Biology, Harvard University)
1995年11月10日
京都市 京大理学部
参加者：29人

公開ワークショップ「共生の生態学」

「アブラナ科植物の直接的及び間接的な食害防衛機構」
矢野 修一（京都大学農学部）
「チョウの食草選択の進化に対する植物と天敵の相互作用」
大崎 直太（京都大学農学部）
「植物-植食者-捕食者三者系の数理モデル」
山村 則男（佐賀医科大学情報数理）
「植物-植食者-捕食者三者相互作用系に見る共生的関係」
下田 武士（農林水産省果樹試験場口之津支場）
「アリの世界の情報化学物質連鎖」
山岡 亮平（京都工芸繊維大学繊維学部）
1995年11月11日
京都市 芝蘭会館
参加者：70人

公募研究会「淡水貝類の繁殖生態と種分化に関する研究」

代表者 西脇三郎（筑波大学医療技術短期大学部）
1995年11月12日
京都市京大会館
参加者：27名

第63回 生態研セミナー

「熱帯湿地林土壌の嫌気分解系」
宮島 利宏（東京大学海洋研究所）
「メスのチョウに対する選択的捕食とベイツ式擬態の進化」
大崎 直太（京都大学農学部昆虫学教室）
1995年11月17日
京都市 京大理学部
参加者30人

生態研セミナー スペシャル

"Community dynamics in dune annuals: models meet data"

Mark Rees (Dept. of Ecology, Imperial College)

1995年11月20日

京都市 京大理学部

参加者：16人

第64回 生態研セミナー

"Towards quantifying the global pattern of ecosystem production"

Georgii A. Alexandrov (Institute of Atmosphere Physics, Russian Academy of Sciences)

「光条件と葉齢、どちらが光合成特性を決めるのか」

彦坂 幸毅 (東北大学理学部)

1995年12月1日

京都市 京大理学部

参加者：20人

第65回 生態研セミナー

「琵琶湖におけるプランクトンの鉛直分布と関連しての水温躍層の役割」

中西 正己 (京都大学生態学研究センター)

"Size-dependant phytoplankton responses to a variable mixing regime (Lake Biwa)"

Jean-Jacques Frenette (京都大学生態学研究センター)

"Optimal nitrogen distribution and leaf area index in stands of C3 and C4 mono- and dicotyledonous species"

Niles Anten (Utrecht University, The Netherlands)

1995年12月8日

京都市 京大理学部

参加者：26人

第66回 生態研セミナー

「動物プランクトンの炭素同位体からみた物質循環」

吉岡 崇仁 (名古屋大学大気水圏科学研究所)

ストイキオメトリー：細胞、個体レベルから生態系レベルをつなぐもの」

占部城太郎 (京都大学生態学研究センター)

1995年12月15日

京都市 京大理学部

参加者：42人

公募研究会「微生物生態学における New Methods の可能性と限界」

代表者 那須正夫 (大阪大学薬学部)

1996年1月6日

大阪府豊中市 大阪大学待兼山会館

参加者：19名

生態研セミナー スペシャル

「森林における樹木の炭素安定同位体比に光環境が及ぼす影響」

半場 祐子 (京都大学生態学研究センター)

1996年1月17日

京都市 京大理学部

参加者：18人

第67回 生態研セミナー

「微生物食物連鎖 - 拡張するパラダイム」

永田 俊 (東京大学海洋研究所)

「生態学における格子モデル」

佐藤 一憲 (室蘭工業大学)

1996年1月19日

京都市 京大理学部

参加者: 36人

第68回 生態研セミナー

「日本産シライトソウ属植物における雌性両生花異株の進化」

牧 雅之 (福岡教育大学)

「地球規模の赤潮: 9000万年前の地球環境」

大河内 直彦 (京大大学生態学研究センター)

1996年1月26日

京都市 京大理学部

参加者: 37人

第69回 生態研セミナー

「三大熱帯域における霊長類種子散布の比較」

湯本 貴和 (京大大学生態学研究センター)

「霊長類と熱帯林との相互作用」

丸橋 珠樹 (武蔵大学) 「

類人猿の同所的共存」

山極 寿一 (京都大学霊長研)

1996年2月2日

京都市 京大理学部

参加者: 29人

生態研セミナー スペシャル

"Biodiversity: Does it matter?"

Simmathiri Appanah (Forest Research Institute Malaysia)

1996年2月9日

京都市 京大理学部

参加者: 30人

第70回 生態研セミナー

"Biodiversity: How to manage it"

Simmathiri Appanah (Forest Research Institute Malaysia)

「クモ類の配偶システムと性二型」

柘元 敏也 (京大大学生態学研究センター)

1996年2月16日

京都市 京大理学部

参加者: 26人

公募研究会「人間活動、外来生物の侵入・導入による成物群集の変動」

代表者 遠藤彰 (立命館大学理工学部)

1996年2月24日
 京都市 京都大学理学部
 参加者：25名

生態研セミナー スペシャル

"¹⁵N in freshwater plants"
 Brian Fry (Florida International University)
 1996年3月11日
 京都市 京大理学部
 参加者：15人

公募セミナー「生態学における理論実証インターフェース：動物 - 植物間の相互作用を中心に」

代表者 安部琢哉（京都大学生態学研究センター）
 1996年3月19日～22日
 大津市 京都大学生態学研究センター
 参加者：講師8名、受講者25名

調査船「はす」運航表

調査船「はす」運行実施表(平成7年度)

月日	時間	用務内容	乗船人数
H. 7			
4/13	9:25~15:30	定期観測	上田、小板橋、研究員・院生4名、共同利用2名
/27	9:35~14:05	サンプリング	小板橋、院生1名
5/1	9:10~11:30	サンプリング	小板橋、院生1名
/9	9:15~15:35	定期観測	上田、小板橋、院生3名、共同利用5名
/31	9:15~13:45	サンプリング	小板橋、院生1名
6/6	9:05~15:00	定期観測	上田、小板橋、院生4名、共同利用2名
/9	16:35~17:20	視察	上田、片山、石井他5名
7/4	9:20~15:00	定期観測	上田、小板橋、院生3名、共同利用1名
/20	8:00	サンプリング(湖上泊)	成田、小板橋、共同利用4名
/21	~15:30		”
/25	9:00~13:30	サンプリング	小板橋、院生1名
/27	10:00	サンプリング(湖上泊)	成田、小板橋、共同利用4名
/28	~14:00		”
8/1	9:10~14:45	定期観測	上田、小板橋、院生3名、共同利用3名
/2	9:30~17:25	水温計の引き上げ	小板橋、共同利用2名
/8	13:30~16:00	京大学生実習	中西、小板橋、実習生10名

/9	10:00~15:00	京大学生実習	成田、小板橋、実習生10名
/10	9:30~11:00	モーターボート修理のため造船所へ曳行	上田、小板橋
/11	13:30~14:00	京大学生実習	成田、小板橋、実習生2名
/14	9:00~13:30	サンプリング	小板橋、院生1名
/21	9:30	潜水、サンプリング	遊磨、上田、共同利用2名
/22	~16:00		
/23	15:00~15:30	修理	
9/3	14:00	観測及びサンプリング	上田、小板橋、院生3名、共同利用6名
.			”
/7	~12:00		”
/18	8:30~9:45	サンプリング	小板橋、院生3名
/19	8:30~12:30	サンプリング	小板橋、院生3名
/22	8:30~14:00	サンプリング	小板橋、院生2名
/28	10:00	サンプリング(湖上泊)	成田、小板橋、院生1名、共同利用4名
/29	~13:30		”
10/11	9:20~14:35	定期観測	上田、小板橋、院生3名、共同利用1名
/13	8:30~15:50	サンプリング	小板橋、院生2名
11/7	9:20~14:50	定期観測	上田、小板橋、院生3名、共同利用1名
12/7	9:00~11:00	定期観測	荒天のため中止(上田、小板橋、院生3名)
/11	9:00~14:30	定期観測	上田、院生3名
H. 8			
1/12	9:40~14:40	定期観測	上田、院生3名
2/5	9:15~14:05	定期観測	上田、小板橋、院生3名、共同利用1名
3/6	9:10~15:07	定期観測	上田、院生3名、共同利用1名

あとがき

- 今回の業績目録も昨年の編集方針を踏襲して作成しました。資料としては保守的に行うことにある程度の意義がありますが、読者の皆さんには引き続き、革新的な御批判、御意見をお寄せ下さいますようお願い致します。
- センターの時限10年の半分が過ぎ、自己評価の作業がはじまっていますが、外部からの評価の際にこの業績目録が資料として役立ちましたらありがたいことです。
- 作業は藤原美紀さんの協力を得ました。厚く御礼申し上げます。
- 協力研究員のうち、30名の方に御自身が載せるべきだと判断された目録をお寄せいただきました。どうもありがとうございました。
- 作業の省力化のため、原稿の作成の際にはいろいろと御協力いただきありがとうございました。原稿スタイルの統一等これからもよりいっそうの省力化に御協力をお願いします。

(編集担当：湯本貴和、藤田昇)